

愛知医科大学 学報



「アリエルの宝物」



「人気者5人ここにあり」



「彼女が夢見る生活」



「幸せがいっぱい」



「僕たちは飛べる」

平成26年度看護学部卒業記念品
「ディズニー『ファイン・アート』」(関連記事7ページ)

＝ 第138号 ＝

2015. 4月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

— 愛知医科大学ホームページアドレス —

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主 な 目 次 ■

平成27年度入学式……………	2
平成26年度卒業式……………	4
平成27年度予算大綱……………	8
就任ごあいさつ……………	12
国際交流センター開設……………	17
シミュレーションセンター設置……………	19
退職を迎えて……………	30
教育・研究最前線「感染・免疫学講座」……	44

平成27年度愛知医科大学入学式

医学部・看護学部入学式



平成27年度入学式が、平成27年4月4日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

式は、君が代斉唱に始まり、医学部113名、看護学部104名計217名の新入学生を代表して看護学部の坂本萌さんから「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い、本学学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」と宣誓が行われました。

続いて、佐藤啓二学長から告辞が、来賓の三宅養三理事長、細川秀一医学部父兄後援会長及び大輪芳裕医学部同窓会会長代理同窓会副理事から祝辞がありました。

最後に医学部の小林千夏さんから「入学式を迎えられた皆さんは、今、希望に満ち溢れ、大きな期待の中にあることと思います。しかし、大学に入学することが決して到着点ではなく、むしろ出発点です。皆さんはこれからたくさんのことを学び、色々な経験を積んで、国家試験に合格し、そして最終的には良い医療人となることを目標に頑張っていってほしいと思います。」と歓迎の辞が述べられ午前10時40分ごろ式は終了しました。



宣誓を述べる坂本さん



小林さんからの歓迎の辞

告 辞

学 長 佐 藤 啓 二



愛知医科大学は、今春医学部113名、看護学部104名の新入生を迎えました。

長く険しい坂道を登ってこれられて、本学に入学をされた皆さん、入学おめでとうございます。

厳しい受験勉強の最中、星空を眺めることはなかったのではないのでしょうか。

皆さんの入学に当たり、宇宙と人間の関わりから、医学を学ぶことは、人間の尊厳を具現化することであるという話をさせていただきます。

2世紀ギリシアのプトレマイオスは、科学的合理的な判断として、地球の周りを太陽が回る「天動説」を唱えました。そこに宗教的な背景が加わり、「神は宇宙を作り、その中心に地球を据え、人間を特別な存在である」と考えるようになりました。しかし、16世紀初頭、コペルニクス（1473～1543）は、等速円運動や離心円モデル等について科学的に検証した結果、「地球は太陽の周りを回る惑星である」という地動説を提唱しました。これによって、「人間は宇宙の中心に存在しており、選ばれた存在である」という虚栄心が打ち碎かれることになりました。

現在では、宇宙は420億光年の広がりがあり、その中に、

2,000億個を超える銀河があり、その一つである天の川銀河には2,000億個を超える恒星があり、その一つの恒星である太陽の八つの惑星の一つが地球であると認識されています。

宇宙が誕生して138億年、人類の歴史はわずか7,000万年です。宇宙からすれば、時間と空間の概念において、人間は無に等しいような存在なのかもしれません。

しかしながら、人間は改めて自分達の存在意義を考え直し、「人間には宇宙を認識することができるという事実や、人間精神に宿る道徳性などが、人間を真の意味で特別な存在にしているものであり、それこそが人間の尊厳の根拠なのだ」と考えるようになりました。

言葉を変えますと、科学を通じて事物の理解を深めること、本来備わっている人間精神の道徳性を磨くことが人間としての根本であるということです。

医学はまさにこの科学と道徳の2面を包括し、これを追求する学問であります。

愛知医科大学に在学中は、物事をよりよく知るために努力すること、人間精神の道徳性を磨くことを決して忘れず、社会の役に立つ人材として成長してほしいと願っています。

期待を込めて学長告辞といたします。

祝 辞

理事長 三宅 養 三



医学部・看護学部の新入生並びにご父兄の皆さま、愛知医科大学へ事に合格されたことに心よりお祝い申し上げます。苦しい受験戦争を経て、皆さんは天下の愛知医科大学に

入学されたのです。愛知医科大学は長久手市にあり、長久手市は名古屋市の近郊にある日本でも屈指の素晴らしい町です。

東洋経済都市データパックによりますと、全国800都市の中で、長久手市は最も快適な都市という結果が報告されました。なぜ快適かというと豊かな自然があり、環境が良いこと、医療・福祉が充実しており安全で、市民の平均年齢が日本で一番若いのだそうです。

住んでみたい都市の中では日本の800都市の中で、4位に位置されておりました。この快適性には、愛知医科大学も大きく貢献しており、長久手市は愛知医科大学の城下町であると長久手市の吉田一平市長は常日頃申されております。城下町という言い方は古い感じがするかもしれませんが、長久手は、徳川家康と豊臣秀吉が最初で最後の一度だけの戦をした「小牧・長久手の戦い」で歴史上非常に有名な場所であります。ちなみにこの戦いでは徳川家康が勝っております。そのような歴史を持ち、素晴らしいところにある本学で皆さんは学生生活が送れるのです。

愛知医科大学は昭和47年に建てられ、まだ歴史は43年と若い大学です。当時、新設医科大学として全国に20の私立医科大学が新設されましたが、その中の一つです。しかし、他の新設医科大学と大きく異なることが一つあります。それは、大きな財産を持つオーナーが私財をなげうって創った大学ではなく、ほとんど自己資金のない状態から初代理事長の太田元次先生が大変な努力と熱意で創立した大学であることです。

創立当初は資金難で多くの困難に直面したこともありますが、先人の弛まぬご努力により本学は順調に発展してまいりました。看護学部も平成12年に創設され、1,271名の卒業生を輩出しております。

しかし、創立してから40年以上が経ちますと、最先端の医療を推し進めるのに多くの問題点が出てまいりましたし、また、耐震性も危なくなってきました。そのため、平成19年からキャンパスの再整備が始まり、その本丸で

ある新病院も昨年の5月に開院する運びとなりました。この間にも多くの困難に直面しましたが、建学当初の愛知医科大学魂とでも言うべき、職員の団結により新病院建設という大事業を無事乗り切ることができました。

皆さんは、この新病院が完成後の最初の新入学生になるわけで、大学にはシミュレーションセンターや国際交流センターなどの新しい教育システムを数多く取り入れており、大いに活用して頂きたいと思います。

近年、愛知医科大学の偏差値は大変高くなっています。言うことは、優秀な学生が入学しているということです。ちなみに、1985年の本学医学部の偏差値は39.9でしたが、2015年には、なんと65.0となっており、その差は25.1もあり、この増幅度は全国の医学系大学で1位であります。それだけ、この30年間に入学生が優秀になったということです。ただ、入学時の成績と大学の成績とは相関がないことも分かっており、入学時にトップグループで入学した学生が留年したり、国家試験で不合格になること、また、最下位グループで入学した学生がトップクラスで卒業することも稀ではないということです。

要するに、入学してからの勉強の仕方でのどのようなことかということです。ただ、経験的に言えることは、このような難関の入学試験を突破し優秀であるにも関わらず、途中で落第したり国家試験に落ちるような基本的なルールが守れないような学生は、確な医療人になっていないことが多いようです。

皆さん、医師一人当たりの養成費、すなわち、医師一人作るのにいくらかかるかを知っていますか。なんと1億円かかるとのデータがあります。6年間で1億円ということは、医学部の学生は1日当たり45,662円を使っていることになります。皆さんが寝ていても遊んでいても、常にこれだけのお金が毎日浪費されているということは驚くべきことです。このお金は、ご両親からの血と汗との結晶に加え、多額の国の税金であります。この事実をよく意識して、有意義な学生生活を送ってください。

愛知医科大学の崇高な理念は、「情緒と品格を兼ね備えたよい医療人の育成」であります。情緒とは感性を意味します。学生時代に良い感性を育んで下さい。それには、勉強ばかりでなく、大学で素晴らしい研究や臨床を行っている人の興奮を垣間見ることにより感性は育成されます。また、品格とは医療を広く深く見る訓練です。基礎医学にも興味を持ってください。

自分の能力を過小評価せず、大きな夢を持って充実した学生生活を送られることを期待いたします。

大学院入学式

平成27年度愛知医科大学大学院入学式が、平成27年4月4日（土）午前9時20分から大学本館701会議室において挙行されました。

式は、看護学研究科修士課程11名、医学研究科博士課程30名の計41名の新入学生が紹介された後、新入学生を代表して医学研究科の角田拓実さんから「学則並びに諸

規則を守り、先生方のご指導に従い本学大学院学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」と宣誓が行われました。

続いて、佐藤学長から告辞が、三宅理事長から祝辞が述べられ式は終了しました。

平成26年度愛知医科大学卒業証書・学位記授与式

医学部・看護学部卒業証書・学位記授与式



平成26年度卒業証書・学位記授与式が、平成27年3月7日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにておいて挙行されました。【写真】

式は、君が代斉唱に始まり、佐藤啓二学長から医学部101名、看護学部123名の卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。

続いて、佐藤学長から告辞があり、来賓の三宅養三理事長、細川秀一医学部父兄後援会長及び小出龍郎医学部同窓会長から祝辞がありました。この後、在学を代表して看護学部3学年次生の越智千景さんから送辞が、卒業生を代表して医学部の古岡秀人さんから答辞が述べられ、卒業記念品の贈呈が行われ、午前11時20分頃に式は終了しました。

告 辞

学 長 佐 藤 啓 二



医学部卒業生101名、看護学部卒業生123名の皆さん卒業おめでとうございます。

難関を突破して入学され、膨大な時間を医学・看護学の習得に充てられ、見事に卒業され、医師・看護師になるところまで、来ておられることを、本当にお祝いしたいと思います。

本日は皆さんに「ノーベル賞と山中教授」をテーマに、「告辞」を述べたいと思います。

ノーベル賞は、1901年に創始され、2014年度までに、864名の個人と、25の団体が受賞しています。価値ある自然科学3部門（物理学賞、化学賞、医学生理学賞）に限ると、アメリカは247名、日本は19名で、日本はアメリカの13分の1です。しかしながら、2001年以降の受賞に限りまると、アメリカ52名、日本13名であり、日本はアメリカの4分の1になり、世界第2位に躍進します。研究から受賞まで約30年余りといわれていることを勘案すれば、我が国では1970年代から研究そのものは活性化していたと考えるべきです。当時の日本を振り返ってみますと、1961年から70年にかけて、池田内閣で所得倍増計画が出され、国民総生産は平均7%の伸びを示すなど、日本の経済成長がもっとも著しい時期でありました。

私立医科大学においても、病院収益と研究業績は、相

関していると言われています。昨年5月に新病院が開院し、高度急性期のモデル病院として、高く評価されています。病院の皆さんの頑張りにより得た収益を効率よく還元し、研究・教育支援を充実させ、エネルギーあふれる大学として突き抜けていきたいと考えています。

さて、山中伸弥教授から学ぶことです。

「天才であったか？」 中・高・大の成績は抜群ではなかったと自ら言われています。

「勉強ばかりしていたか？」 中学から大学2年まで柔道、大学2年からラグビー、現在はマラソンをやっており、スポーツマンです。

「恵まれていたか？」 町工場の息子さんで、ひょっとすれば、街のおやじさんであってもなんら不思議はなかったと思います。

「挫折はなかったか？」 幾度も挫折を経験しておられます。

神戸大学医学部を卒業し、大阪市立大学整形外科に入局し、大阪医療センターにて整形外科医師としてスタートしました。20分程度の手術に2時間かかったところ、先輩医師から、「やまなか」でなく「じゃまなか」だと言われ、臨床医をあきらめるきっかけになったとのエピソードがあります。これが最初の挫折となりました。

大阪市立大学の薬理学の大学院に進学し、基礎研究の道を歩み始めます。日常生活においては、On Offの切り替えが早いと言われていましたが、研究テーマが決まれば、努力を惜しまず、人の3倍研究できるように工夫をしたと述べられており、全ての人から、人柄が良いと評価されています。グラッドストーン研究所に留学をした際には、「ヒト細胞から多分化能を有する幹細胞を作り出す」ことが、患者の治療に役立つのだという明確かつ壮大な夢を抱いてiPS細胞研究をスタートさせました。

帰国後、大阪市立大学薬理学講座で、研究を継続しようとしたところ、ネズミの世話をする役割が大学院生の仕事になっており、ネズミの世話に追われて、山中が「やまちょう」と言われるしまつで、グラッドストーン研究所との落差に悩んで、軽いうつ状態になってしまったと話されています。第二の挫折を経験することになります。

研究を辞めよう、臨床に戻ろうと思い、きっかけ作りに奈良先端科学技術大学院大学の研究職に応募したところ、幸い就職をすることができたが、その研究環境がすばらしく恵まれていて、自信と元気を取り戻し、校内を走って体も鍛えることができた。研究面では、遺伝子について、足し算から引き算への発想の転換が、iPS細胞作成という画期的な成功へと導くことになったと述べています。

また、人生の転機は必ず訪れるものです。

科学技術振興機構の補助金審査に当たって、大阪大学元総長、高名な免疫学者の岸本忠三氏より「まずできないと思ったが、尋常ならざる迫力があつた。」と評価され、多額の研究費を獲得でき、人生の飛躍期に突入することになります。

世界的な研究業績が認められ、京都大学に招聘され、iPS細胞研究に邁進し、2012年、50歳でノーベル賞を受賞することになったことは皆さんよくご存知のことと思います。

終始、夢であった「人に役立つ研究をしたい」という基本線がぶれないまま、世界のiPS細胞研究のリーダーとして活躍され、ものづくり日本のinnovationの象徴的な存在になっておられます。

そこで、皆さんに贈る言葉です。

- 1 夢は大きく持つこと
- 2 要領良く立ち回ろうとしないこと
- 3 努力を惜しまず、常に工夫をすること
- 4 人生において、人柄が評価されていくことが多いこと
- 5 謙虚に、人の役に立つことを考えること
- 6 「人生の転機は必ず訪れる」と理解しておくこと

この6ヶ条を守れば、ひょっとすると、皆さんからノーベル賞受賞者が生まれるかもしれません。

愛知医科大学卒業を誇りに思い、後輩達の手本となるよう、頑張ってください。

祝 辞

理事長 三宅 養三



理事長の三宅でございます。医学部、看護学部卒業生の皆さま、ご父兄の皆さま、ご卒業おめでとうございます。

さて、諸君はどのような学生生活を送りましたか。最近出版された東洋経済都市データパックによりますと、愛知医科大学の長久手市は全国800の都市の比較で最も住み心地がよい都市との結果が報告されました。自然や環境が非常に良く犯罪の少ない安全な町で、医療・福祉が行き届いていることがその理由のようです。医療・福祉の充実には本学の貢献が大きいのと思います。また、出生率や人口増加率は非常に高く、日本でも有数のこれからの発展が期待できる町であるとのことでした。諸君は、そのような素晴らしい環境にある愛知医科大学で学生生活を送られたのです。新病院が開院して新しいスタート台に立った愛知医科大学を、この長久手市のシンボルとして大いに発展させようではありませんか。

色々な思い出の残る学園生活もこれで終わり、さて、これからは医療人のプロとしての道を歩むスタートラインに立つわけです。現在の日本の医療・医学には多くの問題点が浮上しており、皆さんのスタートラインは歴史的に見ても決して良いものとは申せません。しかし、現状の問題点を解決するには、諸君の若い力が絶対に必要です。人の命をケアするプロの道です。そんな職業は、医療人しかありません。無知や不注意や未熟な技量によって、治せる病気が治らなかつたり患者さんに苦しい思いをさせたりしないために、生涯を通して緊張感を持ってよく勉強し、腕を磨き、よい師匠を求めて進むのが医道です。

今、医療の現場で、倫理ということが非常に重要視されています。去る2月に、本学が主催して全国の医科系

大学の医学・医療倫理を考える研究会が開催され、全国の医科系大学の主要なメンバー 300名以上が名古屋に集まり、2日間熱のこもった議論をいたしました。

皆さんも医療人のプロになると常にこの医療倫理を頭に入れながら、医学・医療に取り組んでいく必要がありますが、原点に戻って考えてみますとこの医療倫理は医学・医療の健全な発展のため、更にもっと分かりやすく言うと、良い医療を患者さんに提供するために存在するのです。倫理をあまり厳しくして医療や医学研究学会窮屈になっては、本末転倒であります。利益相反あるいはコンプライアンス、研究倫理等々近年いろいろな言葉が目につきます。

しかし、私が皆さまに述べたいことは、患者さんのためにならない医療は全て倫理違反なのです。勉強しない、腕を磨かない、患者さんの気持ちが理解できない、あるいは理解しようとしらない、これらは全て倫理違反なのです。

もっと身近な倫理違反もあります。医師1人養成するのに1億円が必要であると言われています。私立医科大学の場合、ご両親の多大のサポートもありますが、多くの国税を使っていることも事実です。

愛知医科大学医学部の偏差値は高く、この難関を突破して入学した諸君が途中で留年したり国家試験に落ちたりすることは能力がないためではなく、努力が足りないためで、完全な国民に対する倫理違反です。

私は理事長として、愛知医科大学の卒業生に期待する理念は、「情緒と品格を兼ね備えた医療人」であります。

医療人の情緒と品格とは、豊かな人間性、医療以外の幅広い教養、それと品格を持った臨床・医療行為を意味します。品格を持った臨床とは、表面的な知識だけで行うのではなく、その背景にある基礎医学も意識して行う臨床のことです。このような臨床は、より深く病態に迫ることができ、生涯勉強を続ける原動力となります。また、患者さんは全て異なった病態や背景を持っており、各患者さんに最も適した医療を提供する、いわゆる「個の医療」に近づいていくのがこれからの品格を備えた医療です。

昨年の5月に長年の懸案であった新病院が完成し、環境が一変しました。更に100億円を超す先端医療機器を新たに導入し、これらを駆使した先端医療に加え、教育・研究にも、どしどし改良を加えるべく新しいスタート台に立ったところです。

今年の卒業生は、多くの優秀な学生が本学で卒業研修を行ってくれると聞いております。卒業生の皆さまの今後のますますのご発展を祈っております。

送 辞

在学生 越 智 千 景 さん



長かった冬の寒さも少しずつ和らぎ、穏やかな日差しに春の訪れを感じられる季節となりました。このよき日に、卒業を迎えられた先輩方に、在校生一同、心からお慶び申し上げます。

今日ここに晴れの日を迎えられましたことは、先輩方をあたたかく支えられてきたご家族の深い愛情や、先生方の熱心なご指導もさることながら、先輩方の日々の努力が実を結んだ結果であると思います。その晴れ晴れとした顔を拝見し、改めて尊敬の念を抱いている次第です。

この先進まれる道のりにおいて、幾度となく困難の壁が先輩方の前に立ちはだかるかと思えます。しかし、そのときには、この6年間・4年間いつも支えてくださった先生方や、手を差し伸べ合った仲間を思い出してください。本学で養われた、慈愛に満ちた心、確かな思考力、人をケアするための知識・技術はその壁を乗り越えるための揺るぎない糧となり、先輩方一人ひとりが目指すケアの実現につながると確信しております。

私たちが在校生は、新たな夢を胸に、力強い一步を踏み出されるその姿を、よりよき手本とさせて頂き、この大学を卒業してよかったといつまでも思えるよう、日々精進してまいります。

最後になりますが、先輩方のご健康とこれからの幸多い未来を心より願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日はご卒業誠にありがとうございます。

答 辞

卒業生 古 岡 秀 人 さん



残寒の候も過ぎ、木々の芽吹きに春を感じる季節となりました。

本日は、多くの方々にご臨席を賜り、素晴らしい卒業式を挙げて頂き、卒業生一同、厚く御礼申し上げます。

今日、私たち224名は愛知医科大学を卒業いたします。

大学で様々な人に出会い、価値観に触れ合い、見識を広げ、知識を身に付けたことで、振り返れば入学した時には見ることができなかった景色を見ることができました。この学生生活で、たくさんの仲間と得たかけがえのない一瞬は返っては来ませんが、その一つひとつに黄金の価値があり、私たちにとってかけがえのないものです。

私たちは学生生活を終え、今、医師、看護師としてスタートラインに立ちます。重い責任を持ち、社会という新しい波に立ち向かわなければなりません。

そのために入学時に誓った「目の前の患者に対して誠意をもって接し、その苦痛を取り除くために全力を尽くす」という決意を常に自らの根幹に据え、困難に出会ったときは学生生活で培った知識や人との繋がりを糧に、日々研鑽に励み、絶え間ない努力を尽くし乗り越えていくことを誓います。

最後となりましたが、学長先生、ご来賓の皆さま、在校生の方々に厚く御礼申し上げるとともに、お世話になりました先生方、医学部父兄後援会、看護学部父母会、大学職員の皆さま、学生生活においてお世話になった多くの方々、そしてこれまで惜しみない支援をしてくださった家族に、卒業生一同、心から深く感謝申し上げます。

最後に、母校の更なる発展を祈るとともに、本学卒業生として、その名に恥じぬように日々研鑽を積み重ねていくことを誓い、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

大学院学位記授与式

平成26年度大学院学位記授与式が、平成27年3月7日（土）午前9時20分から大学本館701会議室にて挙行されました。【写真】

式では、看護学研究科修士課程修了者7名、医学研究科博士課程修了者4名一人ひとりに、佐藤学長から学位記が授与されました。

続いて、佐藤学長から告辞が、三宅理事長から祝辞が述べられ式は終了しました。



ディズニー「ファイン・アート」寄贈

平成26年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、ディズニー「ファイン・アート」5点が寄贈され、平成27年3月26日（木）午後4時から7号館（医心館）3階ロビーにて除幕式が行われました。

当日は、佐藤啓二学長、衣斐達看護学部長、八島妙子教務学生部長などの本学役職者や看護学部の教員を始め、平成26年度卒業生が出席しました。

卒業生を代表して加藤早織さんから卒業記念品の贈呈があり、「この作品が、後輩たちに安らぎをもたらし、忙しい日々の中でも明るい笑顔を忘れず、夢と希望を抱いていける、そんな存在となることを切に願います。」とのあいさつがありました。

最後に佐藤学長から、「素晴らしい記念品をご寄贈頂きありがとうございます。今後も、本学にお立ち寄りの



際には是非見に来てください。」とお礼の言葉が述べられました。

いつまでも大切にさせていただきます。ありがとうございました。

平成26年度看護実践研究センター 認定看護師教育課程修了証書授与式挙行

昨年9月に開講した看護実践研究センター認定看護師教育課程の平成26年度修了証書授与式が、平成27年3月27日（金）午前10時から、医心館多目的ホール1・2において挙行されました。

式は、開式の辞に続き、臼井千津看護実践研究センター長から、感染管理分野11名、救急看護分野14名の修了生一人ひとりに修了証書が授与されました。

次いで、臼井センター長から、「これで終わりではなく、認定看護師としての活動の始まりであり、これからも日々精進し頑張ってください。」と式辞があり、続いて、佐藤啓二学長から、「認定看護師の必要性はますます増えているので、本課程で学んだ専門性を活かし、自ら考え実践して頂きたい。」と祝辞がありました。

この後、修了生を代表して、救急看護分野の八島公男さんから、「入学当初より、慣れない座学等で大変でし



たが、認定看護師の役割を果たし、地域、医療に深く貢献していきたいと思います。」との謝辞があり、午前10時40分ごろ式は終了しました。

平成27年度予算大綱

－教育・研究・診療の三位一体で発展－

平成27年度予算が、平成27年3月16日（月）の理事会、評議員会において承認されましたので、お知らせします。

平成27年度予算編成に当たり、本学が永続的に発展・成長し続けるためには、まさに「財の独立なくして学の独立なし」であることから、安定した財政基盤の構築を図っていくことが必要との考えに基づき、事業財源の確保を最重要課題としました。このためには、事業収入の四分の三強を占める病院収入の増収に努めるため、新病院を中心に地歩を固めることとし、まずは病院の機能を最大限に発揮すべく、効率的で高収益体質の構造に繋がる事業を優先して計上しました。

また、医療の質を向上させながら医療収支の改善を図る必要もあることから、限られた資金という制約の下、これを有効に使いつつ、積極的な増収策と経費の効率的な活用策を盛り込んだ事業を中心に、将来への備えも織り込んで、特殊要素（新規減価償却費増分等）を除く、平成25年度と同等条件下（減価償却額25億円）で引き続き黒字を確保する予算を編成しました。

<主な事業>

○学生の教育プログラムシステムを改善，構築します。

- ・タブレット端末を用いた移動型マルチメディア教室の整備
- ・看護学部学務情報システムの再構築

○「安心・親切・快適」を信条に，満足度の高い教育サービスを提供します。

- ・医学情報センター入退館システムのリニューアル
- ・体育館アリーナ迫舞台昇降装置修理

○充実した教育環境の中で，新時代の医学医療を担う人材を育成します。

- ・シミュレーションセンターの設置
- ・クリニカル・クラークシップ充実のため，新たな臨床実習施設を設定

○地域医療への貢献を目指す学生が自立して学ぶことを支援します。

- ・愛知県地域枠特別枠入学者への奨学金
- ・医学部学生への奨学金
- ・看護師への奨学金

○国際的な視野を持った医療人を育成します。

- ・国際交流センターを設置

○科研費獲得率UPを目指します。

- ・計画調書作成支援などのJump Up作戦
- ・A評価者に対する研究費の支援

○研究者のアクティビティを高めるための整備をします。

- ・総合医学研究機構研究基盤設備再生事業
- ・戦略的研究基盤形成支援事業
- ・動物実験部門設備の更新
- ・3T全身磁気共鳴断層撮影装置

○広い視野と高い教養をも備えた看護職員を養成します。

- ・学部教育（新カリキュラムの完成）
- ・大学院看護学研究科（専門看護コース&高度実践看護師コース）
- ・看護実践研究センター（救急看護課程&感染管理課程）

○群を抜いた一流の大学病院を目指します。

- ・腎移植医の増員
- ・放射線診断医の増員
- ・プライマリーケアセンター教授（特任）の配置
- ・周産期母子医療センター助教の増員
- ・新病院建設に伴う寄付金募集
- ・新病院建設関連工事（AB病棟，救命救急センター解体工事他）

○最高水準の医療機能の数々を発信しています。

- ・新聞，テレビ，雑誌等の掲載
- ・病院案内パンフレット刷新
- ・オープンホスピタルの実施

○最先端の「病院」を目指し，病院の活性化を図ります。

- ・臨床腫瘍センターの充実（緩和医療部門の新設他）
- ・若手医師（臨床研修医・専修医）の確保対策（住宅費補助）
- ・臨床研究支援センターの設置（治験管理センター組織改編
- ・先制・統合医療包括センターの新設
- ・診療活動の活性化対策（内科・外科の専任医師の増員）
- ・看護師の確保対策（重症系病棟，手術室のフル稼働）
- ・先進医療の推進

○患者の視点に立った安心で最良の医療の提供を目指します。

- ・医療安全管理室への専任医師の配置
- ・NST専任医師の配置

○チーム医療を担う専門職を強化・充実します。

- ・理学療法士，作業療法士の増員
- ・診療放射線技師の増員

○新しい時代が求める新しい医療制度を展開します。

- ・メディカルクリニック電子カルテの運用開始

○高度急性期医療を支えるシステムを強化します。

- ・総合物流システムの再構築
- ・医療情報システムの機能改善

○最高レベルの教育・研究・医療を推進し，各分野の発展に貢献します。

- ・腫瘍免疫寄附講座 (H27.4～H30.3)
- ・造血細胞移植振興寄附講座 (H26.4～H29.3)
- ・地域救急医療学寄附講座 (H26.4～H28.3)
- ・分子標的医薬探索寄附講座 (H24.4～H29.3)
- ・腎疾患・移植免疫学寄附講座 (H27.4～H30.3)

○新病院コンセプト「生活時間の最大活用」職員にもスタートします。

- ・事業所内保育所（アイキッズハウス）の増築工事

○次のステージに向けた取り組みを始めていきます。

- ・キャンパスマスタープランの作成
- ・大学南側隣地用地取得事業の完了
- ・特定天井調査の実施

○継続して施設整備を実施します。

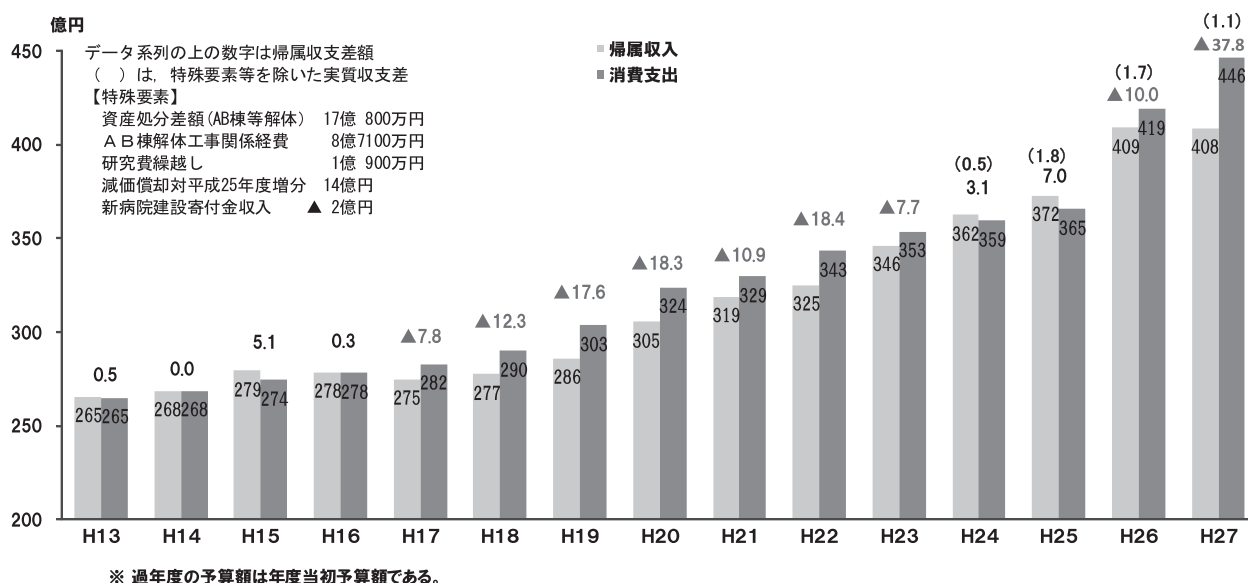
- ・5号館エレベータリニューアル工事
- ・中央棟及びC・D棟サイン追加工事
- ・特高変電所変圧器等更新工事

平成27年度の予算状況は、

帰属収入 408億4,285万余円

消費支出 446億2,037万余円

となっており，帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は37億7,751万余円の支出超過となり，赤字予算となっていますが，特殊要素等を除いた実質の収支額は1.1億円の黒字予算となっています。



＜ 資 金 収 支 予 算 ＞

平成27年 4 月 1 日から
平成28年 3 月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
学生生徒等納付金収入	5,224,025	5,209,780	14,245
手数料収入	206,595	206,412	183
寄付金収入	735,100	952,740	△217,640
補助金収入	1,835,127	2,529,604	△694,477
資産売却収入	0	840,292	△840,292
付随事業・収益事業収入	329,082	243,227	85,855
医療収入	31,884,910	30,966,558	918,352
受取利息・配当金収入	19,266	68,946	△49,680
雑収入	588,751	595,714	△6,963
借入金等収入	150,000	843,000	△693,000
前受金収入	1,106,473	1,069,206	37,267
その他の収入	6,050,740	13,992,781	△7,942,041
資金収入調整勘定	△6,642,342	△6,556,479	△85,863
前年度繰越支払資金	5,862,931	8,429,803	
収入の部合計	47,350,658	59,391,584	△12,040,926

支 出 の 部			
科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
人件費支出	17,956,309	17,564,524	391,785
教育研究経費支出	19,742,329	19,219,124	523,205
管理経費支出	585,327	869,683	△284,356
借入金等利息支出	280,254	297,329	△17,075
借入金等返済支出	1,277,346	4,227,346	△2,950,000
施設関係支出	909,804	8,597,348	△7,687,544
設備関係支出	779,389	3,258,705	△2,479,316
資産運用支出	150,000	1,510,000	△1,360,000
その他の支出	3,808,325	3,863,672	△55,347
〔予備費〕	200,000	200,000	0
資金支出調整勘定	△3,594,405	△6,079,078	2,484,673
翌年度繰越支払資金	5,255,981	5,862,931	△606,950
支出の部合計	47,350,659	59,391,584	△12,040,925

< 事業活動収支予算 >

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		学生生徒等納付金	5,224,025	5,209,780	14,245
		手数料	206,595	206,412	183
		寄付金	555,100	472,740	82,360
		經常費等補助金	1,624,103	2,048,400	△424,297
		付随事業収入	329,082	243,227	85,855
		医療収入	31,884,910	30,966,558	918,352
		雑収入	588,751	595,714	△6,963
		教育活動収入計	40,412,566	39,742,831	669,735
		事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算
	人件費		18,062,344	17,839,019	223,325
	教育研究経費		23,579,151	23,408,770	170,381
	管理経費		775,442	1,041,637	△266,195
	徴収不能額等		14,600	12,300	2,300
	教育活動支出計		42,431,537	42,301,726	129,811
	教育活動収支差額		△2,018,971	△2,558,895	539,924
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		受取利息・配当金	19,266	68,946	△49,680
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	19,266	68,946	△49,680
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		借入金等利息	280,254	297,329	△17,075
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	280,254	297,329	△17,075
	教育活動外収支差額		△260,988	△228,383	△32,605
	經常収支差額		△2,279,959	△2,787,278	507,319
特別収支	事業活動収入の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	411,024	981,204	△570,180
		特別収入計	411,024	981,204	△570,180
	事業活動支出の部	科 目	本年度予算	前年度(12月補正後)予算	増 減
		資産処分差額	1,708,584	210,000	1,498,584
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	1,708,584	210,000	1,498,584
	特別収支差額		△1,297,560	771,204	△2,068,764
	〔予備費〕		200,000	200,000	0
基本金組入前当年度収支差額		△3,777,519	△2,216,074	△1,561,445	
基本金組入額合計		△1,700,000	△5,400,000	3,700,000	
当年度収支差額		△5,477,519	△7,616,074	2,138,555	
前年度繰越収支差額		△37,265,830	△29,649,756	△7,616,074	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△42,743,349	△37,265,830	△5,477,519	
(参考)					
事業活動収入計		40,842,856	40,792,981	49,875	
事業活動支出計		44,620,375	43,009,055	1,611,320	



—質の高い安全な医療の 実践に向けて—

病院長 羽生田 正行

平成27年4月に病院長を拝命いたしました羽生田正行です。昨年度10月から病院長代行を務めさせて頂いておりますが、幸いなことに開院から一年となるこの5月まで診療に支障を来すような重大な事故はなく、病院が順調に稼働できています。まずこのことを皆さまにご報告するとともに、これまで新病院建設・運営に多大なご支援を頂いて参りましたことを深く感謝いたします。

愛知医科大学病院は特定機能病院として、高度な医療を安全に提供しつつ、更に高度な医療技術を開発し、その一方で優れた医療人を育成するという使命を持っています。また同時に、高度急性期病院として急性期の医療を中心に展開することが求められており、診療所あるいは療養型医療機関と密接に連携していく必要があります。昨年度の診療報酬改定でも「地域包括ケア病棟」を中心とした地域で完結できる医療・介護システムの導入が求められてきています。本院としては、地域の中での役割を十分理解した上で、更に多様化するニーズを的確にとらえ、その使命を確実に果たせるよう医師・コメディカル・事務職員等が一丸となって診療にあたる所存です。

昨年の新病院開院以降、本院は土曜日の外来が休診となりましたが、幸い外来患者数は昨年度後半から回復してきております。また、患者アンケートでは新病院で導入した外来患者案内システム「NAVIT」や入退院支援センターが好評で、外来・入院ともに高い評価を得ることができました。我々職員も、このような充実した素晴らしい環境の中で医療を実践できることを心から嬉しく思い日々の診療を行っています。一方残念ながら、平成26年度の決算は病院にとってたいへん厳しい結果でした。この原因を分析しますと、損税となっている消費税の8%への増税、新病院への引越しに備えて4月に減少した入院患者数の回復に8月まで要したこと、そして新病院で稼働すべきシステムや機器が未だ十分に稼働していない点などが挙げられます。このうち最新の放射線治療機器は開院一年を経てようやく本格稼働を始めることができました。またGICUも臨床工学士の24時間在院体

制が本年度から整備できましたので、できるだけ早い時期に28床のフルオープンとスーパーICU（特定集中治療室管理料1）の申請を行い、病院の更なる収益向上に努めたいと考えています。

話は変わりますが、皆さまもニュース等でご存知のように、最近大学病院における医療事故が大きく取り上げられています。これに伴い、厚生労働省は特定機能病院に対し、本年6月から医療安全管理体制を重点的に調べるために集中的な立入検査を実施することが決まりました。この立入検査では主にガバナンス、高難度新規医療技術の導入、インフォームド・コンセントの3テーマを確認すべき事項として、それぞれにルールの有無やルールに基づいた対応ができているかを調査されます。本院では本年9月に病院機能評価受審予定であり、近い将来、特定共同指導が入ることも予想されています。これらの受審・指導でも同様の問題が重要視されています。病院長として、質の高い安全な医療の実践に向け、このような点も踏まえ病院の改善・改革を続けていく所存です。また、愛知医科大学病院の更なる飛躍のために、たゆまぬ努力を続けていきます。これからもご支援よろしくお願い申し上げます。

主な役職者の改選

○ 大 学

【先端医学研究センター長】



住友 誠

(泌尿器科学講座・教授)

引き続き2年間、先端医学研究センター長を拝命いたしました。「研究と臨床の融合による新たな情報発信」を目標に、愛知医科大学の発展に貢献したいと考えております。多くの方々が切磋琢磨して研究に勤しむことができるような環境作りを目指します。

(再任, 任期: H27. 4. 1 ~ H29. 3. 31)

【国際交流センター長】



渡辺 秀人

(分子医科学研究所・教授)

両学部の国際交流活動を統合すべく新設された国際交流センターは、学術国際交流協定の維持と拡大、学生・教職員向けの語学力向上、異文化理解等を目的としたセミナーの開催、外国人研究者の支援等を行います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(新任, 任期: H27. 4. 1 ~ H29. 3. 31)

【情報処理センター長】



妹尾 洋

(法医学講座・教授)

よりよい学生教育への対応を図るため、情報処理環境の更なる充実に努めていきたい。

(再任, 任期: H27. 4. 1 ~ H29. 3. 31)

○ 医学部

【教 務 部 長】



細川 好孝

(生化学講座・教授)

引き続き、教務部長を拝命いたしました。学生諸君の基礎学力の向上は当然ですが、国際認証を見据えながら長期的な展望に立って、愛知医科大学の将来を担う人材の育成を目指した医学教育改革に取り組んでいきます。

(再任, 任期: H27. 4. 1 ~ H29. 3. 31)

【産業保健科学センター長】



小林 章雄

(衛生学講座・教授)

働く人の希望に満ちた労働と生活をサポートできるよう、産業保健における実践的な課題に積極的に取り組み、産業保健活動に携わるスタッフの職能の向上に寄与するとともに、専門学術機関として産業保健の学問的発展に貢献したい。

(再任, 任期: H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31)

【運動療育センター長】



牛田 享宏

(学際的痛みセンター・教授)

病院や自治体、その他の機関との連携により、スポーツをする市民から患者さんまで広くニーズにあった新しいコンセプトでセンターの活性化を目指したいと思います。

(再任, 任期: H27. 4. 1 ~ H29. 3. 31)

【薬毒物分析センター長】



妹尾 洋

(法医学講座・教授)

中毒事例に対応できるよう、高度救命救急センターとの連携を密に取りながら取り組んでいきたい。

(再任, 任期: H27. 4. 1 ~ H29. 3. 31)

【医学教育センター長】



今井 裕一

(内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）・教授）

平成26年度に、わが国でも国際認証を行う組織（JACME）が設立されました。認証された医学部は国際的に公表されます。現在、早期に受審するために準備を重ねていますが、最も重要なことは、医学部の全教職員が一つの目標に向かって共同作業をすることです。皆さまのご協力をお願いいたします。

（新任，任期：H27. 4. 1～H29. 3. 31）

【総合医学研究機構長】



佐藤 元彦

（生理学講座・教授）

総合医学研究機構長を拝命いたしました。高度研究機器部門，動物実験部門，核医学実験部門からなる総合医学研究機構は研究活動の中核であります。設備の積極的な利用を図るとともに，将来を見据えた整備を進め，本学の研究発展に貢献して参りたいと思います。

（新任，任期：H27. 4. 1～H28. 3. 31）

【シミュレーションセンター長】



今井 裕一

(内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）・教授）

新年度からシミュレーションセンターが開設され，川原千香子専任講師が着任しました。医学部・看護学部学生だけではなく，病院職員のスキルアップのために貢献したいと考えています。OSCEへの対策，自己の医療技術の向上，安全な医療技術獲得のために是非活用してください。

（新任，任期：H27. 4. 1～H29. 3. 31）

名誉教授の称号授与

平成27年3月31日付をもって定年退職された横地高志教授（感染・免疫学講座），岩城正佳教授（眼科学講座），磯部文隆教授（外科学講座（心臓外科）），土井まつ子教

授（基礎看護学Ⅱ）並びに同日付をもって退職された浅本憲教授（解剖学講座）に愛知医科大学名誉教授の称号が授与されました。

訃報

加藤秀司 医療情報管理課主査 御逝去



平成27年4月19日（日）に医事管理部医療情報管理課の加藤秀司主査がご逝去されました。享年54歳でした。

加藤主査は，昭和55年3月に愛知県立瀬戸窯業高校を卒業し，同年4月に本学に就職されました。

病院事務部医事課に配属となり，外来係，入院係と診療報酬請求業務を中心に担当されました。また，救命救急センター受付，外来計算受付など患者さんに対して迅速な対応を必要とする部署においても，的確に実直に業務に当たられるその姿勢は

他の職員の模範となるとともに，職員，医師，委託職員等からも高く評価，信頼されておりました。

平成18年5月には，病歴係を担当されることとなり診療録管理，がん登録等の業務に対し地道にかつ精神的に取り組まれました。また，若手職員への教育についても積極的で，その実直な人柄は誰もが認めるところです。病に倒れても職場復帰への意欲は高く，懸命に治療に取り組んでおられましたが，その願いはかないままでした。彼の抜けた穴は大きく，その痛手は計り知れません。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

予算全学説明会開催

平成27年3月27日（金）午後5時45分から大学本館201講義室において、平成27年度予算を中心に予算全学説明会が開催されました。

まず三宅養三理事長から、未曾有の社会変動、経済不況の中、新病院を本丸とするキャンパス再整備事業が無事進捗し、AB病棟等の取り壊しを残すのみとなったことについて、職員の献身的なご努力の賜物であるとの感謝の言葉が述べられるとともに、100億円を超える最新鋭の医療機器及び医療情報システムを備え、最高の医療を提供できる新病院という舞台で、全職員の活躍を大いに期待する旨のあいさつがありました。

次いで、予算責任者である島田孝一法人本部長からは、平成27年度予算について、予算規模、実質の収支額及び重点事業予算の内容等について説明がありました。

引き続き、「債券保有額の推移」について、資金運用委員会を活用しての対応が功を奏し順調に資金化が進んだことに加え、建築不況下で新病院の建設費を安く契約



あいさつする三宅理事長

できたことなどから、資金運用問題は解決した旨説明がありました。

更に「国の給与制度の見直しと本学の対応」などについて、人事院勧告のポイントと本学の地域手当の取扱い等について丁寧な説明が行われました。

なお、参加者は約90名でした。

第3回新病院建設募金感謝の集い開催

平成27年2月7日（土）大学本館第1会議室において、第3回新病院建設募金感謝の集いが開催されました。

これは、同募金に100口以上の寄附をされた個人の方々に感謝の意を表すためのもので、平成26年12月末までに寄附をされた方々を対象に行われました。

始めに、三宅養三理事長から同募金の趣旨にご賛同頂き、ご支援頂いたことに対する感謝の言葉が述べられるとともに日本及び米国における寄附文化の醸成、本学の経営状況等について説明がありました。また、羽生田正行病院長代行（当時）から、平成26年5月に開院した新病院の概要、島田孝一法人本部長から本学のキャンパス整備等の近況報告がありました。

続いて、三宅理事長から寄附者一人ひとりに感謝状が贈呈され、その後、新病院の見学を行いました。

新病院見学後に行われた懇談会では、出席された方々から新病院への期待の意見が多数寄せられました。



平成27年度職員新任式挙行

平成27年4月1日（水）大学本館303講義室において、平成27年度職員新任式が挙行されました。

式では、三宅養三理事長から、「あなたたちは、新病院が建って初めての新任職員です。新病院は元気ホスピタルと言い、患者さんが元気になって帰ることはもちろん、働く職員が元気に働ける、働いて元気になれる病院です。愛知医科大学では、患者さんにとって何が一番良いのか、他大学の真似をする必要はないが、本学流で一番良い医療を提供していきたいと考えております。これから働いて頂く皆さんには、長く勤めて頂けるように願っています。」とあいさつがありました。

なお、今年度の新規職員は224名で、内訳は教員62名、



事務12名、技術1名、医療27名、看護120名、業務2名です。

平成27年度新規採用職員研修実施

平成27年度新規採用職員156名を対象に、平成27年4月2日（木）、3日（金）の2日間にわたり、新規採用職員研修を実施しました。

初日は、学生から社会人への意識転換に触れ、「学生と社会人の違い」や、「なぜ、マナーが求められるのか？」について、自ら考え自発的な社会人意識、マナー意識を醸成する研修を行いました。

2日目は、本学の概要、ビジョン等を説明する講義を行い、島田孝一法人本部長から、本学の財政状況の解説と、先人たちの言葉を紹介して、努力の大切さを伝えました。また、羽生田正行病院長から、本院の理念、基本方針や病院のコンセプトについて説明を行いました。

受講者からは、「財政の重要性が分かり、黒字を続けることが病院をよりよくすることにつながると感じた。」「職員として、理念、基本方針にそって、新病院に貢献していきたい。」と感想がありました。

講義概要

4月2日（木）職場の常識、ビジネスマナー

4月3日（金）大学の概要とビジョン、新規採用職員に期待すること等



続いて、平成27年度新規採用事務職員7名を対象に、平成27年4月6日（月）～8日（水）の3日間にわたり、事務職員研修を実施しました。

グループワークでは、キャリアアンカー（仕事に対する様々な価値観）をテーマにした合意形成のワークや、限られた情報を交換して答えを出す課題解決のワークを行い、同期の人間関係づくりを行いました。

また、事務組織の管理職等21名から、各部門の役割について説明を受け、事務組織の役割を理解し、事務職員に必須となる文書事務、問題解決思考等の学習を行いました。病院見学では、普段あまり見ることでできない手術室や特別室などの見学も行いました。

配属後の成長と活躍により、組織への貢献が期待されます。

講義概要

○グループワーク（合意形成、課題解決、半年間の行動目標）

○事務組織各部門の役割、機能及び目標

○文書事務、問題解決思考、電話対応、パソコンの取扱、目標管理制度等



研究活動における不正行為の防止 コンプライアンス教育の実施

本学では、「愛知医科大学における公的研究費等の取扱いに関する規程」（平成27年3月1日施行）を制定しました。

これは、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成26年2月18日改正文部科学大臣決定）に基づき、本学における公的研究費等の不正使用を防止し、その適正な管理を図るとともに、適切かつ円滑な運営に資するために定めたものです。

更に、同規程の制定に伴い、公的研究費等の適正な運営及び管理を実施するために「不正使用防止計画」、「行動規範」、「誓約書」、「研究用物品の発注及び納品検収業務」を併せて整備しました。

これらの諸規程に基づき、研究費等の不正・不適切な使用を防止するために、本学において研究に関わる全

の者に対して、平成27年3月2日（月）から、コンプライアンス教育（不正を事前に防止するために、機関が構成員に対し、自身を取り扱う公的研究費等の使用ルールやそれに伴う責任、自らのどのような行為が不正にあたるかなどを理解するために実施する教育）を実施するとともに、同時に受講者からは誓約書の提出を義務付け、これらの受講や提出の責務を怠った場合には、公的研究費等に関する申請、運営及び管理に関わることができないことになりました。

本学では、公的研究費等に関わる全ての者がルールの理解を深め、研究費及びそれに係る諸制度をより適正・有効に活用するため、今後もコンプライアンス教育を継続的に実施する予定です。

国際交流の拠点化に向けて 国際交流センター開設

本学の国際交流は、医学部、看護学部の学術国際交流協定大学との学生の派遣等による相互交流を始め、外国人研究員の受入、教員の海外研修派遣など多岐にわたっており、近年では、協定大学も各学部3大学と増加し、交流も活発化しています。

そこで、新たな協定先を確保する予定もあることから、これらの国際交流関係事業を集約し、拠点化を図り、国

際交流を更に充実させるため、平成27年4月1日付で、大学の附属施設として国際交流センターを開設しました。

本センターでは、渡辺秀人センター長（分子医科学研究所・教授）の下で、従来の国際交流関係事業はもとより、国際交流の基盤となる英語力を学生などに習得してもらうため、語学能力向上セミナーや国際交流関係の情報の発信等を積極的に実施していく予定です。

国際交流協定締結大学

医 学 部：南イリノイ大学（アメリカ）、コンケン大学（タイ）、ルール大学（ドイツ）

看護学部：ケース・ウェスタン・リザーブ大学、サンディエゴ大学（アメリカ）、オウル大学（フィンランド）

災害医療研究センター設立記念講演会開催

災害医療研究センターは、災害医療の教育・研究をより積極的に進め、災害医療の発展に寄与することを目的として平成26年11月1日に設立されました。より具体的な事業展開の探求が必要であり、平成27年3月26日（木）大学本館301講義室において、災害医療の第一人者である講師の先生方を招聘し、災害医療研究センター設立記念講演会が開催されました。当日は、学内の教職員を始め、学外の医師、看護師、行政関係者、消防機関の災害医療関係者約100名が参加されました。

講演会は、三宅養三理事長からのごあいさつの後、中川隆災害医療研究センター長からスタッフや事業計画の紹介があり、続いて、東京医科歯科大学の大友康裕先生から「災害医療の成り立ちと今後の展望」、国立病院機構災害医療センターの近藤久禎先生から「愛知医科大学災害医療研究センターに期待するもの」と題したご講演



大友先生



近藤先生

を頂きました。

大友先生の講演では参加者一同、災害医療の今後の動向について理解が深まり、近藤先生の講演では、同センターが愛知県及び中部圏のイニシアチブを取って活動するよう熱い期待が込められ、災害医療研究センターの活動責務が明らかになる有意義な講演会となりました。

腎疾患・移植免疫学寄附講座の設置

平成27年4月1日、本学医学部に「腎疾患・移植免疫学寄附講座」を新たに設置しました。

1 設置目的

腎移植は、末期腎不全の有効な治療法であり、効果的かつ安全な医療の提供は、わが国の慢性腎臓病対策とともに、喫緊の課題である。愛知医科大学で設置予定の包括的腎疾患対策医療チームをサポートする研究組織を構築する。

腎疾患免疫に関する研究課題として、IgA腎症、アミロイドーシス、ループス腎炎、抗GBM抗体関連疾患、腹膜透析の腹膜機能解析に関する研究を、移植免疫領域では薬力学解析、免疫機能モニタリングの導入による個別化免疫抑制療法の実施、抗ドナー抗体陽性移植、慢性抗体関連型拒絶反応の制御に関する研究を推進する。

研究を通して、リサーチマインドを持つ若手医療者を養成する。今まで蓄積した研究成果、構築した臨床・研究組織を利用し、高い医療の質、移植数の実績、充実した研究、教育（人材）を確保することにより、愛知医科大学を基盤とした全国規模での多施設（臨床施設、研究

機関、企業）共同研究を進展させ、革新的な知見を世界に発信する。

2 設置期間

平成27年4月1日から平成30年3月31日まで（3年間）

3 寄附講座職員の構成

- ・ 准教授 岩崎 研太
九州大学農学部卒業、博士（農学）
前職：名古屋大学大学院医学系研究科移植免疫学寄附講座・特任講師

4 寄附者名

- ・ 中外製薬株式会社
- ・ 扶桑薬品工業株式会社
- ・ 医療法人仁寿会
- ・ 特定非営利活動法人日本移植未来プロジェクト

5 寄附金額等

各年度1,920万円（寄附総額5,760万円）

第25回長寿社会フォーラム開催

平成27年2月27日（金）午後1時から、大学本館たちばなホールにおいて、中日新聞社、中日新聞社会事業団、東海テレビ放送、東海テレビ福祉文化事業部、日本福祉大学及び本学主催で「第25回長寿社会フォーラム」が開催されました。

同フォーラムは、高齢期の生きがいづくりや、どうすれば個々人が充実した人生を送れるかを課題として受け止め、豊かで生きがいのある社会を築きあげていくための「明日への提言」の場として始められ、今年で25回目を迎えました。

今回のフォーラムでは、東海旅客鉄道株式会社相談役の須田寛氏を講師としてお招きし、「未来を拓く夢の超特急～新幹線50年の歩み、これからの歩み～」と題したご講演を頂き、昨年10月に開業50年を迎えた東海道新幹線に関する変遷について、ご自身の著書に基づいてご講



演頂きました。

フォーラムは、新幹線とともに歩んできた須田氏への関心の高さから受講定員400名を超える多くの参加申し込みがあり、大盛況のうちにフォーラムは終了しました。

名古屋市教育委員会共催 市民大学公開講演会開催

平成27年2月21日（土）午後1時30分から、イーブルなごやホールにおいて、名古屋市教育委員会との共催で「市民大学公開講演会」が開催されました。

当日は、名古屋市を始めとする多くの一般市民の方々にご参加を頂き、「愛知医科大学における最先端研究・医療」をテーマに、2部構成で行われました。

講演会は、三宅養三理事長による開催のあいさつに始まり、第1部講演では、メディカルクリニック長の馬場研二教授（特任）から「気道のアレルギーと慢性咳嗽診療の最前線～愛知医科大学メディカルクリニックにおける取り組み～」と題して、長引く咳の原因や対処法などについて、具体的な症例や数値を示しながらお話し頂きました。

続いて、第2部講演では、外科学講座（消化器外科）の佐野力教授から「肝胆膵外科の現状と問題点」と題して、本院における肝胆膵がんの治療法や手術等について、詳細にお話頂き、参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。

最後に、佐藤啓二学長から閉講のあいさつとして、新病院やメディカルクリニックの施設紹介があり、盛況のうちに講演会は終了しました。



馬場クリニック長



佐野教授

中部先端医療開発円環コンソーシアム主催 メディカルメッセ開催

平成27年2月16日（月）名古屋市中企業振興会館において、メディカルメッセが開催されました。

この催しは、「医療機器メーカーと医療関係者、そしてモノづくり企業が一堂に会した、それぞれの医療ニーズと技術シーズの展示会」であり、名古屋大学を中心に、本学を含む12の機関で結成された「中部先端医療開発円環コンソーシアム」の活動の一環として開催されました。

本学からは、梅澤一夫教授（医学部分子標的医薬探索寄附講座）が医薬品開発に発展する可能性を持った研究シーズをブースで展示し、多くの来場者の関心を集めま

した。また、「医療現場ニーズ発表会」では、中央臨床検査部の谷浩也副技師長と医事管理部の秋田高典部長が、それぞれ本院における現場ニーズについて発表しました。

会場では、多くの来場者が熱心に聞き入り、中でも、モノづくりを行う企業関係者からは、医療現場ニーズへの関心の高さがうかがえました。

本学では、今後も研究活動や医療機関としての活動を積極的に行い、社会への情報発信をしていきます。

本学が当番校として 第50回医学系大学倫理委員会連絡会議開催

医学系大学倫理委員会連絡会議は、各施設の倫理委員会の連携を保ち、学術的情報及び意見の交換、医学・医療における倫理の向上に寄与することを目的とし設立され、本学を含め全国の医科系大学80校が加盟しています。本団体は、年2回（夏季・冬季）総会及び学術集会を開催しており、このうち学術集会を主催する当番校は、加盟校が持ち回りで担当しております。

このたび、第50回の学術集会が本学を当番校として、平成27年2月13日（金）、14日（土）の2日間にわたり、名古屋市千種区のルブラ王山で開催され、全国77校の医学系大学から293名の教職員が参加しました。

初日の午前中には、団体事務局により取り仕切られた総会が開催され、午後から翌日午前にかけて学術集会が開催されました。総会長である三宅養三理事長、岡田尚志郎医学部長、山口悦郎医学部倫理委員会委員長らによる座長の下、学術集会は進められ、世界で初めてiPS細胞を用いて移植手術を行った、理化学研究所の高橋政代先生を皮切りに、米国を拠点に活躍されているDr. Ichiro Kawachiなど各界で活躍されている多くの著名な



総会長としてあいさつされる三宅理事長

先生方の講演により、医学・医療の倫理について活発な議論が行われ、盛会裡に終了しました。

また、2日目の午後には、団体事務局主催による研修会が開催され、倫理委員長、委員会委員や事務職員等のグループに分かれて、日頃から問題となっていること等のグループ討論が行われました。

内科学講座（消化器内科）改編

平成19年9月に医学部内科学講座（消化器内科）に「消化管分野」及び「肝胆膵分野」の2分野が設置され、これまでその運営については、両分野が密接な協力体制により教育・研究・診療活動が行われてきました。しかしながら、近年では同じ消化器内科といえども、両分野はそれぞれ専門性が高いことから、診療内容、診療実績やそれに伴う評価、教育研究も別々に行うことが求められてきています。

また、内科専門医制度の変更に伴い、内科学講座全体で専門医資格取得に向けた協力体制を構築する必要があるため、従来のように単に消化管分野と肝胆膵分野をローテ

ートしていれば良いという環境ではなくなったことから、独立した診療科としてより専門的な研修を行う体制づくりが必要となりました。

今般、これら外部環境の変化にも対応するべく平成27年4月1日付で消化器内科を医学部及び大学病院の両組織において、「消化管内科」及び「肝胆膵内科」に改編することとなりました。

このことにより、今後、それぞれの教授の下で教育・研究・診療活動がこれまでも増して発展することが期待されます。

メディカルスキルを鍛えよう！ シミュレーションセンター設置

現在の医学教育においては、国際認証評価に向けて更なる臨床実習時間の確保及び内容の充実が求められています。しかし、指導者の監督下とはいえ、いきなり医療の現場で実習を行うことは、医療安全上・倫理上などの問題が大きく、安全かつ十分な教育効果を期待することは困難です。

そのため、本学では、卒前卒後一貫教育の効率的な実現及び医療者のスキルアップの機会を提供するため、平成27年4月1日付で、医学部の附属施設としてシミュレーションセンターを設置しました。

また、センター長に今井裕一教授（腎臓・リウマチ膠原病内科・教授）、専任教員として川原千香子講師が就任されました。

本センターでは、シミュレーターを活用することによって、医学生・看護学生が危険を伴う、あるいは臨床で遭遇することの少ない重要な医療技術について、段階的



に習熟するための学習が可能となります。また、臨床研修医などの医療者の目的に合った様々な臨床技能の習得コースを開発し、生涯学習のための機会を提供することで、全ての医療関係者に対してメディカルスキルの研鑽機会を提供することを目指しています。

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 公開シンポジウム開催

本学では文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「致死性臓器傷害に対する次世代分子標的治療法の開発」(平成23～27年度)に、計9講座主要研究者計14名が取り組んでいます。患者の死に直結する臓器障害に焦点を当て基礎研究、臨床研究さらには創薬・治療を視野に入れた研究を展開しています。

本事業の4年度目終了時期の平成27年3月13日(金)に、大学本館第1会議室において公開シンポジウムを開催し、本事業に従事する11名の研究者が研究成果を発表しました。開催に当たっては各研究分野を専門とする9名ならびに総合評価担当の3名の先生方に参加頂きました。

研究代表者 渡辺 秀人 教授(分子医科学研究所)

た。幅広い視野と深い見識に基づいた様々な意見や改善へむけた提案が出され、全体として極めて活発な議論が展開されました。出席された方々は本事業の全容さらには本学の研究状況を俯瞰することができたのではないかと感じています。

本事業も残すところあと1年となりました。本事業は学内の研究基盤の強化と研究気運の醸成に繋がる重要な事業です。これまでの反省点を踏まえて更なる改善に努め、大きな成果が得られるよう鋭意努力する所存であります。今後ともご理解ならびにご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成26年度実験動物慰霊祭挙行

平成26年度医学部実験動物慰霊祭が、平成27年3月11日(水)午後1時30分から実験動物飼養塔前において、厳かに執り行われ、医学の教育・研究の発展のための礎となった諸動物の冥福を祈りました。

慰霊祭では、始めに本学の医学研究のために貢献した動物の諸霊に対し参加者全員で黙祷が捧げられました。引き続き、岡田尚志郎医学部長から、瞑目した諸動物に対して、その尊い献身に感謝するとともに慰霊の辞として、医学研究の発展のため尊い犠牲となった動物たちの霊に哀悼の意を表し、今後とも動物愛護の精神に基づき、更に実験動物の愛護に努めることを誓いました。

その後、佐藤元彦総合医学研究機構研究監、奥村正直動物実験部門長に続いて、日頃動物実験や飼育に携わっ



哀悼の辞を述べる岡田医学部長

ている教職員や学生一人ひとりから白いカーネーションの花が献花台に捧げられ、諸動物の冥福を祈りました。

白衣式挙行

平成27年4月2日(木)午後4時30分から、大学本館たちばなホールにおいて、白衣式が挙行されました。

白衣式では、共用試験CBT・OSCEに合格し後期課程に進級した医学部学生に対して、「Student Doctor」の称号を授与するもので、参加した学生は新しい臨床実習用の実習衣を着て、白衣式に出席しました。

始めに、岡田尚志郎医学部長から、臨床実習に臨む者としての心構えについて話があり、代表者にStudent Doctor証書が授与され、細川好孝医学部教務部長から、学生全員にStudent Doctorのワッペンが授与されました。

学生代表の堀田奈見さんから「私たちがこれまで学んできたことは、ほんの一部に過ぎません。実習を通して、医療チームの方々や患者さんから学ぶことの方がずっと多いと思います。本日から、Student Doctorの自覚と責任を持ち、患者さんを始め医療チームの方々からも、『1人の医療者』として認められるよう、より一層、努力していくことを誓います。」と代表の言葉がありました。

また、佐藤啓二学長、羽生田正行病院長、小池三奈美



看護部長からも激励のあいさつがあり、終わりに、学生代表の秋本健さんが宣誓文を読み上げ、全員が復唱するという形で学生宣誓が行われました。

白衣式終了後、大学本館前ロタリーにおいて記念写真を撮影した後、レストランオレンジで臨床教員及び看護部職員との懇親会が開催されました。

新入学生ガイダンス実施 ～大学生としての第一歩～

平成27年度入学生を対象としたガイダンスが、医学部は4月6日（月）・10日（金）、看護学部は4月4日（土）から10日（金）に実施されました。各新入生からは、入学の喜びの表情が溢れていましたが、ガイダンスが進むにつれて、これから始まる大学生活への真剣なまなざしが見受けられました。

◆ 医学部ガイダンス概要

日	時 間	内 容
四月六日 (月)	10:00	医学部のカリキュラムについて
	11:30	授業、試験等の教務関係について
	13:15	・学生生活支援について ・災害（地震、台風等）について
	14:00	留学制度に関する説明会
	14:20	合宿研修説明 実習衣採寸・注文 実習用ズボン採寸・注文 教科書販売
	15:00	自動車学校入校説明会（任意）
四月十日 (金)	10:00	交通安全講習会 ・交通安全に関する講話・DVD
	11:30	・ハラスメント防止に関する説明会 ・学生相談室の紹介
	13:00	施設紹介 ・愛知医大サービス株式会社
	13:30	施設紹介 ・情報処理センター
	14:00	施設紹介 ・医学情報センター（図書館） ・運動療育センター
	14:40	施設案内
	15:20	健康診断説明
	15:30	奨学制度に関する説明会（任意）

◆ 看護学部ガイダンス概要

日	時 間	内 容
四月四日 (土)	11:00	看護学部長・教務学生部長あいさつ
	11:10	教員紹介
	11:40	集合写真撮影
四月六日 (月)	9:00	学修オリエンテーションⅠ (学則、履修規程、学習方法等)
	10:40	学修オリエンテーションⅡ（1部）
	13:00	学修オリエンテーションⅡ（2部）
	14:40	新入生研修ガイダンス
	15:00	施設紹介 ・愛知医科大学愛恵会等
	15:30	施設紹介 ・運動療育センター
四月七日 (火)	15:50	事務手続き及び連絡等
	9:00	医科大学生として 習得しておくべき心肺蘇生術
	13:00	学業生活について（1部）
	13:30	保健衛生・感染症対策
	14:40	学業生活について（2部）
	15:40	傷害・賠償保険等の説明
	16:10	教科書の購入
四月九日 (木)	16:50	実習衣の採寸
	13:00	施設利用講習会 ・情報処理センター
四月十日 (金)	10:00	交通安全講習会 ・交通安全に関する講話・DVD
	11:30	・ハラスメント防止に関する説明会

大学生としてのマナーを身に付けよう 新入生研修実施

本学では、医学部・看護学部ともに新入生を対象に大学生としての基本的なマナーを学び、医療人としての心構えを身に付けることを目的として、毎年4月に新入生を対象とした研修会をカリキュラムに導入しています。

医学部 医療人入門合宿研修

医学部では、平成27年4月7日（火）～9日（木）の3日間にわたり、三谷温泉（愛知県蒲郡市）において、医学生としての品位や品格、自ら学ぶ姿勢を身に付け、集団行動を通して、実践をためらう心理的抵抗（自分の殻）を打ち破り、これからの学生生活を円滑に過ごす基礎を築くことを目的とした「医療人入門合宿研修」を実施しました。

まず、大学本館講義室において、三宅養三理事長から「本学の歴史・使命・教育理念」についての講演を受けた後に、研修先へ出発しました。

研修では、岡田尚志郎医学部長による「医学生生活の落とし穴」の講演に始まり、本学の臨床教授9名による、各診療科の内容や特色について講演する「愛知医科大学臨床系☆キラ星☆セッション」や三宅理事長、基礎科学、基礎医学の教員による「愛知医科大学未来トーク」がパネルディスカッション形式で行われました。また、2日目の夕食は立食形式とし、教員と学生の距離を縮める良いきっかけとなったことと思われます。

1日目、2日目は小雨の舞う天候でしたが、3日目は晴天となり、とても充実した研修が行われました。



看護学部 新入生研修

看護学部では、平成27年4月8日（水）本学体育館において、大学生として、学習に臨む姿勢や態度、マナーなどを学ぶとともに、同級生、上級生、教員との交流を図ることを目的とした新入生研修が実施されました。

新入生たちは、八島妙子教務学生部長を始めとする本学部教員から「大学生としてのマナー」と「保健衛生・感染症」といった講話を熱心に聞いた後、アドバイザーごとに分かれて、昼食をとりながら、懇談会を開催しました。

午後からは、キャンパスツアーと題してスタンプラリー形式で上級生とともに構内を見学し、学内の各施設について多くを知ることができました。その後、体育館に戻りキャンパスツアーで気になった施設等についてグループで発表しました。

最後に、上級生からの話に加えて学生間の交流会を開き、貴重な情報を得る機会となりました。

この研修は、これからの学生生活を送る上で、非常に有意義な一日になりました。



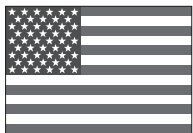
交通安全講習会開催

平成27年4月20日（月）午後5時30分から大学本館ちばなホールにおいて、愛知警察署交通課総務係警部補の清水重春氏を講師に迎え、医学部・看護学部の学生を対象とした交通安全講習会を開催しました。

清水講師からは、愛知県は昨年度も交通死亡事故ワースト1であり、今年も愛知署の管轄内で既に死亡事故が発生していること、自分が注意していても、交通事故と関わる可能性は誰にでもあること等の講話があり、引き

続きDVDを鑑賞しました。「終わりのなき後悔」と題されたDVDは、飲酒後にやむを得ず車を運転して事故を起こし、その後の悲惨な状況が描かれており、いかなる事情があろうとも、飲酒運転は絶対にしてはならないことを強く印象付ける内容でした。

受講した学生にとって、この交通安全講習会を通じ、交通安全に対する意識を常に高く保ち、一人ひとりが交通安全に努めてくれることを期待します。



看護学部学術国際交流 提携大学教員の来学



看護学部では、平成27年2月に学術国際交流提携校であるケース・ウェスタン・リザーブ大学（米国）、3月にオウル大学（フィンランド）から教員を招聘して、相互の交流を図りました。

詳細は、次のとおりです。

平成27年2月17日（火）から2月23日（月）までの日程で、ケース・ウェスタン・リザーブ大学（米国オハイオ州）から、Christopher Manacci氏（大学院急性期ケア・ナースプラクティショナーコース、フライトナーシング専攻主任）とCeleste Alfes氏（看護学部准教授）を招聘しました。

今回の招聘では、看護部職員及び看護学部教員対象の講演会（テーマ「Using Simulation to Train Novice Nurses」）と看護学部教員対象の講演会（テーマ「Utilizing Nursing Alumni to Develop a Standardized Patient Program」）及び平成25年度から学生の受入れを開始した大学院看護学研究科高度実践看護師コースの学生に対する講義（テーマ1「胸腔チューブの臨床適用」、テーマ2「意識障害における臨床推論」）を開催するとともに、中央棟（新病院）や長久手市内の福祉施設などの視察を行いました。

ケース・ウェスタン・リザーブ大学は、学生の短期留学など、本学部との学術交流に対して協力的であり、今後の学術交流の発展に向けて大変有意義な招聘となりました。

平成27年3月3日（火）から3月8日（日）までの日程で、オウル大学（フィンランド、オウル市）から、Ulla Timlin氏（健康科学研究所講師）とHeidi Ruotsalainen氏（医学研究センター研究員）を招聘しました。

今回の招聘では、看護学部教員対象の講演会（テーマ1「Adherence to Treatment Among Psychiatric Inpatient Adolescents」、テーマ2「Intervention Development Process: A Study of Promoting Physical Activity in Obese Adolescents」）及び教員との交流セッション（テーマ1「運動療育センターにおける減量プログラム」、テーマ2「わが国における自殺の現状と対策」、「自殺患者に対する救急医療の現状と課題」）を開催するとともに、中央棟（新病院）や近隣の医療福祉施設（柵訪問看護ステーション、あいち小児保健医療総合センター）の視察を行いました。

オウル大学とは、教員の相互研修派遣を実施しており、今後も継続的に学術交流を深めていきます。



大学招聘者等による学長表敬訪問
(写真前列左側：Christopher Manacci氏、前列右側：Celeste Alfes氏)



オウル大学招聘者等による理事長表敬訪問
(写真中央左側：Ulla Timlin氏、中央右側：Heidi Ruotsalainen氏)



大学院講義



学部対象の講演会

看護学部一日体験入学開催 ～看護系大学の授業を体験しよう～

平成27年3月25日（水）に「看護学部一日体験入学」が開催されました。高校生を対象として、看護系大学における講義の実験を体験することで、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めて頂くことを目的としています。

当日は、35名の高校生が参加し、午前中の体験授業（テーマ：子どもとねむり）では、現代の日本の子どもたちの睡眠事情や睡眠の働きなどについて学びました。

昼食時は、レストランオレンジで体験演習のアシスタントを務める看護学部生と歓談しながら交流を深め、休憩時間には、看護学の各領域及び国際交流について紹介する展示を見学したりして過ごしました。

午後の体験演習では、新生児の人形で、抱っこ、おむつ交換・更衣、バイタルサイン（心拍・呼吸数）測定及び身体測定をしたり、実際に離乳食を試食するなどをし、子どもの看護について体験しました。

参加した高校生からは、「体験授業を聞いて、自分の睡眠リズムを振り返ることになった。」、「看護のことを



体験授業

いろいろと聞くことができて良かった。」、「在学生と話すことができて参考になった。」などの感想が寄せられ、高校生にとっては貴重な体験をすることができ、とても有意義で充実した内容となりました。

平成26年度第4回医学部FDセミナー開催

平成27年3月19日（木）医学部講義室において、医学部第4回FDセミナーが開催されました。

今回は、千葉大学大学院医学研究科の田邊政裕特任教授を講師としてお招きし、特別講演「アウトカム基盤型教育の理論と実践“Why, What, How”」と題したご講演を頂き、今後の医学教育の国際化に向けた取組みにおいて、従来型のプロセス基盤型教育からアウトカム基盤型教育への転換の重要性とその段階的取組み方法について、千葉大学における事例を基に詳細にお話し頂きました。

また、講演後には参加者が6グループに分かれて、実際に本学におけるアウトカムの作成を行いました。そこでは、発表会で田邊講師から、このままアウトカムとし

て使用可能であるとお墨付きを受けるほどのものもあり、今後本学でも本格的に行っていくアウトカムの作成に向けた確かな一歩を感じさせるものとなりました。

世界医学教育連盟（WFME）における国際認証という新しい医学教育の潮流の中、その一環としての教員FDの役割と重要性はますます高まっており、その声に応える形で本年度は従来の宿泊型研修（年1回）から、講義・グループ討論形式（年4回）に変更して実施をしました。このことにより、より多くの教員に参加頂くことが可能となりました。

医学部では今後も引き続き、教員FDにおける更なる研修プログラムの充実化を図っていきます。

平成26年度第3回看護学部FDセミナー開催

平成27年2月23日（月）看護学部講義室において、看護学部における教育研究指導上の問題点を明確にして、その解決法を考察するとともに、看護系教員のレベルアップを図るためのFDセミナーが開催されました。

3回目となる今回は、名古屋大学高等教育研究センターの夏目達也教授を講師としてお招きし、「今一度、大学教育とは～大学で教えること、学ばせること～」について、ご講演頂くとともに、ワークショップを開催しました。

参加教員を四つのグループに分けて「大学教員は誰のためにあるのか」、「学生中心の授業の条件は」等についてグループ討議を行い、環境の変化により、望ましい手法論は変遷しており、その変化に確実に対応することが重要であると述べられました。また、学生に質の高い授業を提供するために必要な「授業改善方法」についての討議では、多様性に富んだディスカッションがなされ、教員間のより良い相互作用が図られました。

夏目氏は、できることから愚直に取り組むことが大切であり、授業をICレコーダーで録音し、客観的に分析することや授業アンケートなど、第三者からの評価を有効に活用することを勧められました。

新任教員に対する育成では、相互の授業参観の勧めや



ワークショップを行う看護学部の教員

先輩教員からの成功及び失敗事例のアドバイスが重要であると強調されました。

また、名古屋大学高等教育研究センターが発行している「ティップス先生からの7つの提案」には、教員の教育力を向上させる考え方やヒントとなる鍵が掲載されていることを紹介されました。質疑応答においても、教育研究活動に関する活発な意見交換がされ、白熱した議論が展開されました。

看護学部FD委員会は、今後も教育研究の質向上に積極的に取り組んでいきます。

篤志献体者に 文部科学大臣から感謝状贈呈

本学の解剖学教育のために献体頂いた次の方々に対し、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。

なお、感謝状の贈呈は、献体者のご遺族が受領を希望された方です。

梅田 静子 殿	大澤 正道 殿	大戸 正夫 殿	方波見初子 殿	加藤 政勝 殿
後藤 新三 殿	柴田美登志 殿	杉山マリ子 殿	須藤 三男 殿	前古ますゑ 殿
祖父江哲夫 殿	高瀬 末夫 殿	高橋 たき 殿	滝川 龍男 殿	戸部 艶子 殿
西川 壽夫 殿	萩野 友郎 殿	原 正彦 殿	坂 ふさ子 殿	日原 大 殿
平裕はるゑ 殿	福井すま子 殿	松浦 静枝 殿	三浦 たね 殿	三厨 學 殿
水野三枝子 殿	山谷 弘子 殿	吉田 勇雄 殿		(以上 五十音順)

学生サークルHIAMU 「防災フェスタ2014 in昭和」へブース出展

平成26年11月30日(日)名古屋市昭和区役所において、当地域住民の防災力の向上を目的として「防災フェスタ2014 in昭和」が開催され、学生サークルHeart in AMU (HIAMU) がブース出展をしました。

同フェスタは、誰でも参加できる体験型プログラムを中心に災害時に役立つ知識を身に付けることを目的として、毎年区を変えて名古屋市内で開催されています。また、学生サークルHIAMUでは、その活動の一つとして自主的にボランティア活動を行っており、災害医療や防災について学ぶため、同フェスタからブース出展の依頼を受けて、今回初めて参加をすることとなりました。

出展に当たっては、昭和区の防災ボランティアの会から「災害時の医療活動について学びたい。」というリクエストがあり、学生たちはトリアージが体験できるようなゲーム形式のブースを企画しました。参加前には、トリアージに関する自主学習会を実施して準備を進めていきました。

当日HIAMUのブースには、参加した子どもたちやそのご家族が集まり、学生たちの分かりやすい解説と丁寧な対応がとても盛況でした。また、実行委員会や公共のボランティアの方々からもたくさんの感謝の声やお褒めの言葉が寄せられ、平成27年7月に開催される防災フェスタにもぜひ参加してほしいと依頼を頂き、ブース出展を予定しています。

HIAMUの防災ボランティア班の班長である医学部4



学年次の都築侑介さんからは「今回の出展では、地域の皆さんに楽しく理解してもらうことをテーマとしました。そこで、子どもたちがトリアージを体験するゲームや災害時の医療体制に関する模型を使い、トークを交えて考えてもらう仕掛けを作ったりしました。また、地域の方々とのふれあいを通じて、改めて災害医療を考える良い機会となりました。今年も、7月に瑞穂区で実施される防災フェスタへブース出展をする予定なので、昨年の内容を更に良くして、もっと多くの人に楽しんで頂けるようにしたいと考えています。」と感想がありました。

医学部卒業生 高柳友子氏 東京弁護士会人権賞受賞

医学部卒業生の高柳友子氏が、平成27年1月9日(金)「東京弁護士会人権賞」を受賞されました。

同賞は、1986年から毎年、人権擁護活動に尽力されてきた個人やグループ、団体に授与されるものです。

高柳氏は、現在、社会福祉法人日本介助犬協会の事務局長として務められ、介助犬とともに暮らす障がい者の社会参加と社会復帰を推進し、医師としての立場から介助犬の普及・啓発活動を推進されております。また、補助犬分野の学術的發展を推進するため、日本身体障害者補助犬学会の立ち上げにも尽力されており、このような功績から、同賞を受賞されることとなりました。

長年にわたる、高柳氏の努力に敬意を表し、この度の栄えある受賞心よりお祝い申し上げます。



受賞を祝う会にてあいさつされる高柳氏

医学部学外体験実習体験記

愛知県内の心身障がい者施設にご協力頂き、平成27年2月9日（月）から2月20日（金）にかけて医学部2学年次生が学外体験実習を行いました。心身障がい者の人たちと接する初めての体験は、医学生に大きなインパクトを与えたようです。実習を終えた学生の感想文を紹介します。

障がい児の子どもたちと過ごして実感したこと

実習施設：愛知県青い鳥医療福祉センター
2学年次生 鈴木 諒治

今回の実習は、障がい者施設を見学し、障がいを持つ方々の介護等を体験するもので、私が訪れた青い鳥医療福祉センターは、医療型障がい児の入所施設でした。

私は、小学校の頃に同じ学年に障がい者学級があったわけでもなく、そもそも小さい子供と接すること自体私の経験上あまりなかったもので、障がい児と触れ合うということは非常に新鮮な体験であったのですが、実習前は子供たちと上手く接することができるか不安でした。

それに、障がい児に対して、「何をしでかすか分からない」という印象があり、子供と接することは楽しいというイメージがありましたが、障がい児と接することは苦労の連続だろうと予想していました。しかし、実習を通してそのイメージは大きく変わりました。何より、今回触れ合った子供たちはみんな人懐っこく、本当に純粋な笑顔を見せてくれたからです。

子供たちは、こちらからのアクションに対して精一杯、素直に答えてくれます。実習前は、過度に「障がいを持っている」ということに気を遣い過ぎていましたが、子供たちと遊んでいるときはそういった感情はなく、自然に子供たちと触れ合うことができました。

また、障がい児施設ならではの特色も見ることができました。運動訓練において、私は左半身に麻痺がある子供を見学させて頂きました。まず、右手にカバーをして右手を使えないようにして、麻痺のある左手で本のページをめくる、おもちゃのピアノを弾く、ボールプールに入る等の運動をしました。ボールプールは、ただの遊具ではなく、数多くのボールと体全体で触れ合うことにより、自分の体の幅を知る等、知覚発達に役立つそうです。その他、安全面においては、小さい子供にはヘッドギアを身に付けさせたり、移動するときは車いすで子供を完全に固定して移動させたりしていました。

今回の実習で考えさせられたことは、実習の最初にセンター長さんからお話の中にあったことで、言い方が悪くなってしまうが「生きながらえてしまった命」とどう向き合っていくかということでした。昔であれば、生まれる段階で死んでしまっていた赤ちゃんも、現在では、医療技術の進歩により生き延びることができる。しかし、それと引き換えに重度の障がいを一生にわたって持ち続けてしまう子供だっているわけであり、すぐに答えの出

る話ではないが、将来医療に携わる者として考えさせられる事柄でありました。

自分は今まで、街で障がいを持つ子供を見たりすると、少し変わった目で見たり、かわいそうだと思ったり、やはりどこか特別視していました。しかし、今回の実習で実際に障がいを持つ子供たちと触れ合うことで、障がいを持つ子供でもやはり普通の子供なのだという事を認識することができました。

子供たちと新聞紙で遊んだり、格闘ごっこをしたり、将棋をしたりする中で、障がいというものを感ずることはなかったし、この子たちも普通の子供となら変わりのない一人の子供なのだと強く認識することができました。そして、特別な目で見めるのではなく、そういった子供たちがなるべく不自由なく生活でき、大人になってからも社会に貢献できるような環境作りが大切なのだということを今回の実習を通して実感することができました。

ケース・ウェスタン・リザーブ大学短期留学体験記

看護学部では、米国ケース・ウェスタン・リザーブ大学フランシス・ペイン・ボルトン看護学部と教員・学生の交流を含む包括的な相互交流を行っています。平成27年3月14日（土）から3月23日（月）までの日程で、看護学部生4名が留学しました。短期留学を終えた学生の体験記をご紹介します。

Case Western Reserve University 短期留学を終えて

4 学年次生 胡 静婷^{こ せいてい}

私はCase Western Reserve University (CWRU) 短期留学プログラムへの参加を通して、多くの経験をすることができました。プログラムの内容は、看護学部の講義・演習への参加、CWRUの学生とのペアによる実習体験、様々な施設の見学などでした。

講義や演習は、全て英語での説明となるため、理解することがとても難しかったですが、講義の内容は日本とかなり似ていて、看護理論やモデルなどは、私が大学で受けた授業と同じものが説明されており、看護のあり方は日本もアメリカも同じなのだと感じました。演習は、少人数で行われており、モデルを用いたシミュレーションが多かったです。少人数での演習であるため、先生に質問がしやすく、また、実際に針やシリンジなどの器具を用いて練習するため、方法を理解しやすく身に付きやすかったです。

また、今回、私たちのために演習の時間を設けて頂き、採血の手技を指導して頂きました。講義で、説明は受けていましたが、モデルでの練習をしたことはなかったため、とても良い経験になりました。

実習体験では、驚くことが多くありました。CWRUの学生は、投薬やカルテへの情報の入力、カテーテルの抜去など様々なことを行っていたからです。カルテを確認し、患者さんとコミュニケーションをとり、どのような看護ケアが必要であるか指導者のサポートを得ながら、学生自身が考え実践していました。日本では、看護師の免許を取得していない学生が、投薬を始めとした様々なケアへ直接介入することは許可されていません。しかし、アメリカでは、ケアへの直接介入の制限が日本よりも低く、実践を通じた技術の獲得ができる教育方法でした。また、学生は、看護師や他職種とも積極的に連携をとっていて、チームの一員となっているように感じました。学生が自立して患者さんのことを総合的に捉えたケアを行っているため、思考面でも技術面でも日本の看護学生よりも成長が速く、看護師となったときに自信を持って看護を行うことができるのではないかなという印象を受けました。

その他にも、私たちは3か所の施設を見学させて頂きました。McGregor Homeは高齢者のための施設で、施設の中に利用者を閉じ込めておかないという方針で運営されていました。ボランティアによる様々なレクリエーションが行われていたり、認知症の方が施設内を安全に徘徊できるような環境作りがされていました。高齢者を無理に抑えつけるのではなく、環境を整えて自由に楽しい時間を過ごしてもらえるように見守るという看護がと

ても大切であると感じました。

Hospice of the Western Reserveでは、ターミナルケアにおいては全人的なケアが必要不可欠であり、患者・家族・医療者間で病状・治療に関することはオープンにし、信頼関係を築いた上で関わるのが大切であると改めて感じました。このホスピスでは、長期入院患者さんはごく少数で、ほとんどが状態悪化や家族の休息などのための一時的な入院でした。多くの患者さんは、在宅ホスピスで医療者の訪問によるサポートを受けながら生活していました。病院という場合は、患者さんにとって非日常であり、その中で過ごすことは苦痛で、最期まで自分らしく生きるためには、やはり自宅で生活を続けるということがかなり重要な要素です。しかし、現状は、日本でもアメリカでも病院で亡くなるケースがほとんどです。在宅ホスピスが広まり、自宅でその人らしく最期を迎える人が増えてほしいと感じました。

Seidman Cancer Centerは、全体的にとっても明るい印象で、患者さんをリラックスさせるために、検査室内で映像を見ることができたり、天井に風景画を画くなどの工夫がされていました。また、待合室の壁にはがんが完治した人々の写真と言葉が飾られていて、治療に対して前向きになれるような配慮がされていました。日々の辛い治療も工夫により、ストレスが緩和され希望が持て、患者さんにより影響を与えていると感じました。

8日間という短い期間ではありましたが、様々な経験をする事ができたとても充実した期間でした。今回の短期留学は、アメリカの看護を知ることを目的に参加しましたが、アメリカの看護について知るとともに改めて日本の看護の良いところに気づくことができました。今回の経験を通して、自分自身の看護観を深めることもできました。これからの学習や看護師となったときにこれらの学びをぜひ活かしていきたいです。



修了証を手に記念撮影（筆者右から2人目）

定年退職教授最終講義

今年3月で定年を迎えられた4名の教授の最終講義が大学本館たちばなホール及び看護学部棟N301講義室において行われました。

長年にわたり本学の発展に多大なる貢献をして頂き、また、本学の医学・看護学教育に対しご尽力くださいました先生方の講義には、学内外から多数の方が聴講に訪れました。

ここに、先生方の最終講義の様子についてご紹介いたします。

横地 高志 教授 2月4日（水）

【エンドトキシンー愛と死の輪舞（ロンド）ー】

横地先生は、平成2年4月にご着任以来、細菌学・免疫学分野の講義や実習において大変な熱意をもって教育指導に当たってこられました。

長きにわたり、教務部次長を経て教務部長の役職に就かれ、単位制カリキュラムの導入を始め、本学の医学教育の改革・改善には大変ご尽力をされました。

最終講義では40年にわたる研究活動の中で、精力的にエンドトキシンの研究を続けてこられた様子や、エンドトキシンの持つ毒性を死神にたとえて、二面性があり奥深いメカニズムであることを多くの資料や写真を用いて、時にユーモア溢れるお話で詳しくご説明くださいました。

また、休日には趣味であるロードレースを楽しまれておられ、今後はより良い成績を狙うためトレーニングを



強化して体を鍛え直されるとのことで、明るいお人柄を感じることができました。

最後は、教室員を始め、これまで関わりのあった方々への謝辞をもって講義を締めくくられました。

岩城 正佳 教授 2月23日（月）

【眼科の歴史と自分史】

岩城先生は、平成4年6月にご着任以来、医学部学生に対する眼科学の講義はもとより、臨床実習においては専門知識・診察力・治療技術を会得させることに重点を置いて精力的な指導に当たってこられました。

長きにわたり、教務部次長、教務部長並びに医学部長補佐として医学教育の改革・改善に手腕を揮われました。

先生は、長年にわたり網膜硝子体疾患の研究に取り組みましたが、最終講義では、これまで歩んで来られた歴史を、「生い立ち」、「眼科学の基礎・臨床研究」、「愛知医大の眼科と将来」として、写真やデータに加えて術中の動画を用いて詳しくご教示くださいました。

先生は今後、年齢を重ねたことによりできる患者さんへの対応に加え、今の社会や世界に貢献できることはないかと積極的に考えていきたいとの抱負を述べられました。



た。

最後に、恩師や教室員を始め関係部署の教職員の方々への謝辞とともに、愛知医科大学の今後の発展を祈念していると講義を締めくくられました。

磯部 文隆 教授 2月26日（木）

【一心臓血管外科医としての歩み】

磯部先生は、平成18年5月にご着任以来、心臓血管外科分野における講義をご担当され、臨床実習では、専門的知識に加え患者さんとの接し方、医療人としての全人的な教育にも力を注がれました。

また、臨床活動においては、若手医師への手術手技の指導を含め、多大なる貢献をされました。

研究面では、長年にわたり、心臓血管外科分野の中でもとりわけ刺激伝導系を軸とした研究に取り組んでこられました。

最終講義では、先生が心臓血管外科をご専門とされるに至った歩みを詳しくお話しくださり、研究・診療活動の様子についても、多くの資料や写真に加え動画も交えてご説明くださいました。続いて、本院における心臓血管外科手術の状況や、心臓血管外科医の養成に係る様々な問題点や課題をお示しくくださいました。

最後に、外科医としての心構えは「鬼手佛心」であり、



常にこの気持ちで手術に当たってきたと話されました。

今後は、釣りやゴルフがゆっくりできることを楽しみにされているとのこと、これまで各機関で関わりのあった方々やご家族への感謝の言葉をもって締めくくられました。

土井 まつ子 教授 2月10日（火）

【私の出会った先生たち】

土井先生は、平成16年4月に小児看護学の教授として本学部に着任し、平成18年4月からは基礎看護学領域に異動され、本学部の看護学教育にご尽力されました。また、併せて着任時から大学院看護学研究科の教授として感染看護学も担当頂きました。

平成18年4月から2期4年間にわたっては、看護学部長及び大学院看護学研究科長を務められ、平成20年4月には看護実践研究センターを設置し、認定看護師（感染管理、救急看護）教育、看護職への教育・研究支援及び地域連携・支援に大きく貢献されました。更に、大学院看護学研究科感染看護学領域における専門看護師教育課程の開設にもご尽力され、国内でもまだ少数である感染症看護分野の専門看護師を本研究科から7名輩出するなど、全国的にも大きな実績を残されました。（全国の感染症看護専門看護師数:32名（平成27年4月30日現在））

最終講義では、「私の出会った先生たち」というテーマで、土井先生の生い立ちから看護師、教育・研究職としての経験を通しての多くの人との出会いと、そのことがご自身の現在につながっているということについてお話されました。また、小児喘息の看護を始め、化学療法を受ける患児さんの感染予防、院内感染の予防、地域における感染対策支援というように、常に土井先生が看護実践と研究をつなげてこられたということを、熱く語られました。



また、学生には、「人との出会いを大切にしてください。そうすれば、あなたの道はきっと開けます。」というメッセージが贈られました。

当日は、雪の舞う大変寒い日ではありましたが、三宅養三理事長や島田孝一法人代表人を始めとする多くの教職員や学生が集まり、盛大な最終講義となりました。人との関わりを大切にされ、愛知医科大学はもとより日本の看護教育に多大なる貢献をされた、土井先生ならではの心温まるユーモアあふれるお話に、深い感銘を受けました。

最後に土井先生からは、多くの人に支えられて本日を迎えることができました。ありがとうございましたと謝辞が述べられました。

—退職を迎えて— “長年の勤務お疲れ様でした”

長年にわたり本学に勤務され、本年3月31日をもって定年退職又は期間満了退職された方々をご紹介します。
なお、定年退職後も再雇用等により本学にご尽力頂ける方もみえますので、引き続きのご活躍をご期待いたします。
退職に当たり、一言メッセージを頂きました。



横地 高志 先生
(感染・免疫学講座・教授)

退職を迎えて

今春、つつがなく定年退職を迎えることができました。
本学の職員皆さまのおかげと感謝しています。

本学に教授として赴任して20数年になります。日本海側側の福井医科大学から、生まれ育った愛知に戻ることができて、ほっとしたことを覚えています。教室づくりや研究室の立ち上げにいろいろ苦労したのがついこの前の

ようです。

しだいに研究成果が出るようになり、順調に教室が発展できたのは、教室員全員の努力によるものです。

現在、私の専門であるエンドトキシンの国内外の研究者で、「愛知医大」、「Aichi Medical University」を知らない人はいないと思います。そして、講座から巣立っていったエンドトキシン研究者が、世界中で活躍しているのはとてもうれしいことです。研究をしっかりとすることで人は成長し、その中で優れた次世代を養成できると思っています。優れた次の世代が、ますます本学の発展を引き継いでいってくれることを願っています。



岩城 正佳 先生
(眼科学講座・教授)

迷い道

平成4年6月に医学部眼科学講座の助教授としてお世話になって以来、22年と9ヶ月が経過し、本年3月末で定年退職いたします。

大阪市立大学を卒業後、京都大学医化学講座及び滋賀医科大学学生化学講座で大学院生、講座助手として11年、京都大学眼科学講座で医員、助手として3年、神戸市立中央市民病院で医員、医長として4年過ごさせて頂きました。したがって、本学は卒後40年で最も長い職場となりました。

本学には西田祥藏教授、荻野誠周助教授（いずれも当時）のご厚意とご尽力により採用されました。以降4年

間は、助教授として眼科学の講義と臨床実習にあたりました。また、当時、京都大学の医員であった雑喉正泰先生が本学大学院で学ぶため赴任して頂き、網膜や硝子体の基礎研究を開始しました。

平成9年に教授に昇進させて頂いた後は、多くの手術を手掛けさせて頂きました。この頃は眼科手術の新しい発展期であり、白内障、硝子体、緑内障の新しい手術に意欲的に取り組みました。

平成15年から医学部教務部長を一期務めさせて頂き、その後も佐賀信介医学部長（当時）の下で、医学部長補佐として医学教育の仕事をさせて頂いたのも貴重な経験でした。

22年余にわたる長期間、楽しく大学勤務を続けられたことは教職員、学部学生皆さんのおかげであり、心より御礼申し上げます。躍進する愛知医科大学の益々の発展と、皆さまのご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。



磯部 文隆 先生
(外科学講座（心臓外科）・教授)

心臓血管外科医としての刺激伝導系を軸とした臨床と研究

昭和50年3月に大阪市立大学を卒業後、直ちに東京女子医科大学心臓血圧研究所に所属し、心臓血管外科の研究を開始しました。その後、国立循環器病センターにてレジデント、医長を拝命し、国立大阪病院にて心臓血管外科部長となり、平成18年5月に医学部外科学講座（心臓外科）の教授として就任いたしました。

心臓血管外科のほぼ全ての領域の臨床を経験し、パングラデッシュ国への医療援助や米国ワシントン大学への留学により世界へ目を開くこともできました。専門として、刺激伝導系を軸とした研究に没頭し、不整脈外科の黎明期から現在まで関わる事ができたこと、更にこの間に歴史的に著明な先人や同僚、また、優秀な後輩に巡り会えたことは、何よりの財産であったと感謝いたしております。

約9年間と短い期間でしたが、本学にて外科医として現役生活を思う存分堪能し、この度メスを置くことになった幸せを心からお礼申し上げます。今後、愛知医科大学の発展を遠くから見守らせて頂きます。



土井 まつ子 先生
(基礎看護学Ⅱ・教授)

退職を迎えて

大学院看護学研究科の設置を契機に平成16年4月に本学に着任し、11年間お世話になりました。この間、大学院の専門看護師コース（感染看護学領域と急性重症患者看護領域）、看護実践研究センターの認定看護師コース（感染管理と救急看護）を開始しました。看護学部の教員はもとより、医学部の先生方からも多大なお力添えを頂き、両コースを発展させていくことができました。

また、看護学部長時代は、7対1看護の導入の時期に当たり、法人のご支援の下で、看護部との協力関係を飛躍的に進展させることができました。

第1・2回の卒業生の本大学病院への就職率は20～30%程度でしたが、その後は就職率が60%を超えるようになり、感無量であります。これらの仕事を無事務めることができましたのも、ひとえに学内の皆さま方のご理解とご協力の賜物であり、ここに改めて御礼申し上げます。皆さまから頂きましたご指導、ご支援を忘れることなく新たな気持ちでこれからの人生に向かう所存でございます。本学の今後のますますのご発展を祈念いたします。



服部 秀樹 さん
(法医学講座・准教授)

私の研究人生は、おかげさまでいつも温かな職場とスタッフに恵まれ、今日まで自分のペースで思う存分研究を行うことができました。皆さまとの出会いは、私の生涯の大切な宝物です。心より感謝の気持ちを込めてALOHA！



内海 恵子 さん
(メディカルクリニック・准教授)

光陰矢の如しと言いますが、いかに長く愛知医大にお世話になったかと感慨深いものがあります。助けて頂いた多くの方には感謝を、ご迷惑をお掛けした方にはお詫びを申し上げます。さようなら。



伊藤 可宗 さん
(医療情報システム課・課長)

30数年間情報部門業務に携わり、手書きの時代からコンピューターの普及に努め、電子カルテ導入まで達成することができました。これも皆さまの協力があったからと感謝しお礼申し上げます。



瀧井 和子 さん
(看護部・師長)

多くの方々に温かいご支援を頂き、無事定年を迎えることができましたこと、大変感謝いたしております。ありがとうございました。



姫野 俊子 さん
(看護部・主任)

良き職場とスタッフに恵まれ30年間勤めて無事定年を迎え、また再雇用で働けることとなり、二重の喜びです。皆さまに感謝しお礼申し上げます。



西村 敏一 さん
(愛知医科大学・教学監)

就職した目的“抗核抗体はステロイドと結合して標的細胞核に移行する”の一例は、同僚等の協力を受け25年かけて証明した。心残りは、“生殖細胞に導入した遺伝子は次世代に受け継がれる”を証明できなかったことです。



宮口 彰久 さん
(一般社団法人医学部同窓会事務
出向・主事 (法人本部付参与))

「上善如水 (老子)」を座右の銘とし精進できましたことは、偏に恵まれた職場の先輩、仲間や関係諸兄方々の支援の由と、心より感謝申し上げます。愛知医科大学の永続のご発展を祈念いたします。



渡辺 弥千雄 さん
(医学部父兄後援会事務出向・主
事 (法人本部付参与))

開学と同時に入職して40年余。建物は教養棟だけ、石ころごろごろ、草ぼうぼうのキャンパス。まさに隔世の感があります。多くの方々との出会いと別れも良き思いで。ありがとう愛知医科大学。



山口 節子 さん
(運動療育センター・栄養士 (再
任用職員))

多くの専門職の皆さまから刺激を頂き、いつも新鮮な気持ちで続けることができました。長い間のご支援に感謝申し上げます。愛知医科大学のご発展を祈念申し上げます。



病院長所信表明及び新救急・当直体制説明会開催

平成27年4月22日（水）大学本館たちばなホールにおいて、羽生田正行病院長による所信表明及び三木靖雄高度救命救急センター部長、今村明プライマリケアセンター部長による新救急・当直体制の変更説明会が開催されました。

多くの職員が出席するなかで、羽生田病院長からは本院の現状と課題及び目指すべき目標が示され、今後本院が進むべき方向に全職員一人ひとりが意識を一つにして邁進していくことが肝要であり、職員の皆さまにはこれまで同様ご協力を頂きたい旨要請がありました。

続いて、三木高度救命救急センター部長及び今村プライマリケアセンター部長から、平成27年4月27日（月）からスタートする新救急・当直体制について説明がありました。これまでと大きく変更された点として、一次・二次救急と三次救急の患者受け入れ対応が分けられました。これに伴い、新たに救急対应当直医が置かれ、専修



所信表明する羽生田病院長

医の当直体制の見直し等も実施されます。

今回の体制変更は、本院がより多くの救急患者を受け入れる体制の構築を目指したものであり、これまで以上に地域社会に貢献する救急体制の充実が期待されています。

臨床研究支援センター設置

本学が企業治験、医師主導治験及び臨床研究を通して医療の進歩に貢献し、患者さんにより良い医療をより早く受けて頂けるように、治験や臨床研究をサポートする目的で、平成27年4月1日付で従来の治験管理センターを改組し、新たに臨床研究支援センターを設置しました。

遺伝子を含めた新しい診断法、分子標的薬や最近注目されている免疫療法などの新しい薬物療法、新しい治療機器や手術手技、再生医療など医療は常に進歩を続け、

多くの疾病において予防、早期発見、治療及び症状の軽減などが期待できるようになってきました。

本センターの治験部門は、従来どおり企業治験だけでなく医師主導治験もサポートします。また、臨床研究部門は、生物統計家がメンバーに加わり、信頼性の高い研究計画の作成や適切な統計解析の実施、論文作成をサポートします。臨床研究セミナーを月1回開催し、構成員一同が診療科の範囲を超えてサポートします。

先制・統合医療包括センター（専門外来）設置

平成27年5月14日付で先制・統合医療包括センターのマーナ（mRNA）健康外来が全国の大学病院で初めて開設されました。近年、健康に対する国民の意識は非常に高揚してきています。その理由の一つとして、癌の罹患頻度は年々増加の一途を辿り、日本人死亡数の最多な原因疾患を占めているからです。そのため、国（厚生労働省）・愛知県・長久手市は種々の健康目標を策定し、中・長期的な視点から生活習慣病を予防し、少しでも「健康寿命延伸」を実現することにより、個々人の生活の質（QOL）の向上を図ろうとしています。その医療戦略の一つが先制・統合医療です。

この戦略にも応えるべく地域の中核病院である本院

が、(1) 生活習慣病予防（特に癌）を未病の段階からより早期にリスク診断し、個々人の将来の健康状態を予測する。(2) 先手を打つことで意識付けや行動変容を惹起させ、個々の生活習慣病を予防・改善・治療に導く。このことが、本院の担う最大の社会貢献であると考えています。本外来を十分に活用頂くことにより、より早期の疾病リスク診断が可能となり、単なる予防医療ではない真の意味でのSelf-medication（発症前に自分で病気の芽を摘む医療）が大いに期待できます。

本外来はこれからの発展を期して始まったばかりです。皆さまのご支援・ご協力を何卒宜しくお願いします。

卒後臨床研修修了証授与式挙行

卒後臨床研修修了証授与式が、平成27年3月16日（月）午後6時から大学本館701会議室において挙行されました。

式は、羽生田正行病院長代行を始め、佐藤啓二学長、岡田尚志郎医学部長、春日井邦夫卒後臨床研修センター長及び各副センター長等が出席の中、整然と且つ厳かに執り行われました。

始めに、春日井センター長から「2年間の臨床研修を全員が無事で修了したことを本当に嬉しく思う。旧病院と新病院のプライマリケアセンター（PCC）で、各1年間研修して、今のPCCがあるのは過渡期を担った皆さんの努力のおかげであり、感謝している。この2年間お互いに助け合い苦労してやってきた仲間は一生涯の宝であり、今後各々違った道を歩めど、お互い助け合って、頑張ってもらいたい。更に飛躍して、自身のため本学のために頑張ってもらいたい。」と告辞があり、各出席者からの祝辞の後、センター長から一人ひとりに修了証が手渡されました。



今回修了した24名（研修医21名、研修歯科医3名）のうち17名は本院の専修医として、専門医、認定医や学位取得を目指すことになります。

本院での臨床研修医として修得した知識、技術及び経験を生かし、各々がより一層精進されることが期待されます。

新規採用医師ガイダンス開催

新規採用医師ガイダンスが、平成27年4月1日（水）に開催されました。対象者は4月1日付け新規採用医師、帰局医師及び新規採用臨床研修医で計79名が受講しました。

このガイダンスは、平成22年度から医療安全を始めとする、主な院内ルールの周知徹底を目的に開催しており、羽生田正行病院長による「辞令交付」と「病院の概要及び経営方針」の説明に始まり、各部門の責任者から、院

内主要部署の業務内容、救急医療体制、医療安全管理、感染予防対策、プライマリケアセンターの役割などについてのガイダンスが集中的に行われました。ガイダンスの内容は、日常の診療に直ちに反映されるものばかりであり、参加した医師は真剣な表情で受講していました。

今後、年度途中に入職する医師については、今回の講義内容を録画したDVDを視聴することにより、ガイダンスに充てることとしています。

臨床研修医ガイダンス開催

平成27年4月1日（水）から9日（木）まで、新人研修医25名及び研修歯科医2名を対象に、本院における臨床研修に必要な基本的な事項についての「臨床研修医ガイダンス」を開催しました。

羽生田正行病院長及び春日井邦夫卒後臨床研修センター長からの医師としての心構え等についての話しから始まり、今村明副センター長による「研修医他己紹介」と題するグループワーク（GW）やBLS（一次救命処置）研修、医学部及び看護学部の新入生に対して研修医がBLSの指導を行うBLS指導者講習会を実践し、いわゆる「屋根瓦方式」の指導を行いました。また、感染予防研修として手洗いの正しい方法や手術着の清潔操作を確認し、採血実習と縫合実習が行われました。

今年は新たに、災害医療研究センターの協力で医療安全や、重症外傷の初期対応について、実際にシミュレー



タを使って経験することができました。

最後に春日井センター長から、臨床研修医一人ひとりに臨床研修許可証が手渡され、8日間のガイダンスが終了しました。このガイダンスの内容は、参加した臨床研修医の方々にとって、将来必ず役立つものと期待されます。

感染予防に関する講演会開催

平成27年2月24日（火）午後5時30分から、感染予防に関する講演会が大学本館たちばなホールにおいて開催されました。

当日は、聖マリアンナ医科大学内科学医局長で、川崎市立多摩病院総合診療内科部長の國島広之先生を講師としてお迎えし、「新型感染症の現状と課題」と題してご講演を頂きました。

平成26年度は、新型インフルエンザの模擬訓練が国家行事として行われ、また、西アフリカを発端としたエボ

ラ出血熱の感染者が2万人を超え、日本では代々木公園でのデング熱感染者が多数発生しました。このようなことから、当日は参加者が600人を超え、過去最多参加者を100名以上上回る結果となりました。

この感染予防に関する講演会は、厚生労働省により病院職員全員が参加することとなっており、当日来られなかった方のために、DVDを貸し出して視聴して頂くことも行っております。

医療安全講演会開催

平成27年2月25日（水）午後5時30分から、大学本館たちばなホールにおいて、医療安全講演会が開催されました。

今回で33回目となる講演会は、新病院における医療安全の取り組みと課題というメインテーマの下、次の内容で執り行われました。

第1部「新病院における問題点とその解決策」

講師：宮地正彦医療安全管理室副室長（外科学講座（消化器外科）・教授（特任））

第1部では、新病院において人や時間の節約、安全性・機能性を向上させるため、施設表示や物流、コンピューター再配置、食事廃棄削減に取り組み、今後も医学管理料徴収漏れや職員の働きやすい環境調整に向けた意気込みについて講演されました。

第2部「インスリンオーダーシステムを如何にして使いこなすか」

講師：近藤正樹助教（内科学講座（糖尿病内科））

また、第2部では、電子カルテ上に新規導入されたインスリンオーダーシステムの使用法・注意点・利便点に加



え、低血糖・高血糖時の対応などをわかりやすく丁寧に紹介されました。

新病院への移行・引越を終えた本院にとっては、タイムリーな話題でもあり参加した職員は、熱心に聞き入っていました。

今回の受講者数は、582名でした。収容人員の制限や業務により受講できなかった職員については、講演の模様を録画したDVDの視聴にご協力頂きますよう宜しくお願い致します。

保険診療に関する講演会開催

臨床研修病院においては、全職員を対象とした保険診療に関する講習が、年2回以上実施されていることが必須とされているおり、平成27年3月2日（月）午後5時40分から大学本館たちばなホールにおいて、一般社団法人日本血液製剤機構の谷澤正明氏から、「平成26年度診療報酬改定から見る医療制度改革の方向性～DPCデータから見た愛知医科大学病院現状と課題～」と題し講演会が開催されました。

講演会では、始めに医療制度改革の方向性を分かりや

すく説明され、次に本学の現状の立ち位置を県内の他施設との比較により解説して頂きました。まとめとして、平成26年度改定は単なる通過点であり2025年（平成37年）を見据えた運営が今後、重要であると締め括って頂きました。

講演会は医師、看護師、コメディカル等の幅広い職種から238名の参加があり、今後の医療制度改革に対する関心の高さを窺える講演会でした。

愛知県DMAT隊員養成研修開催

平成26年度愛知DMAT隊員養成研修が平成27年3月21日（土・祝）、22日（日）の2日間にわたり、看護学部棟を主会場として開催され、県内から医療関係者約100名が参加しました。

この研修会は、本院が基幹災害拠点病院であることから、愛知県からの委託を受けて毎年開催されているものです。

DMAT（災害派遣医療チーム）は、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとってDMAT（ディーマツト）と呼ばれており、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。厚生労働省が、全国の医療機関に1,000チームの配備を目指しており、東日本大震災を始め、伊豆大島、広島での土砂災害、御嶽山

噴火による火山災害では、発災後直ちに該当チームが被災地に入り活動するなど、その災害対応力は高く評価されています。

今回の研修会では、今後日本DMAT隊員とともに活動することが見込まれる医療機関の職員を対象に、災害医療に関する研修を実施して、県内での災害時の医療体制を強化することを主目的に開催されました。受講修了者は、愛知DMAT隊員として、その後全国レベルでの追加研修を受講することにより、日本DMAT隊員の資格を得ることができます。

研修会では、日本DMATインストラクターとして、医師部門を中川隆教授（災害医療研究センター）、業務調整員部門を小澤和弘助教（災害医療研究センター）がそれぞれ担当し、参加者は真剣な表情で研修に取り組んでいました。

エボラウイルス感染症に関する講演会開催

平成27年3月12日（木）愛知県医師会館において、愛知県及び愛知県医師会の後援の下、災害医療研究センター主催で「エボラウイルス感染症に関する講演会」が開催されました。

平成26年から西アフリカでアウトブレイクした本疾患は、秋には、米国テキサス州ダラスで3人の患者が発生するなど世界中の脅威となっていました。そのため、州政府らと協働して、対策に当たったテキサス大学南西部医療センターのSwienton教授とKlein准教授を招聘して、詳細な経緯と対応策に関する解説をして頂くとともに

に、正しい個人防護服の着脱方法についてのデモンストラーションをして頂きました。

講演では、患者との接触歴や渡航歴を確認する重要性を強調するとともに、早期に疾患をスクリーニングするための発熱の取り扱いについて強調され、100人近い参加者から熱心な質問も飛び出しました。

本疾患がわが国に輸入されるリスクがあるため、正確な知識と確実な技術を身に付けておくことは重要であり、災害医療研究センターでは、今後も災害医療に関連した勉強会を継続して開催していきます。

メディカル クリニックだより

電子カルテを導入

メディカルクリニックでは、平成27年4月1日（水）から、本院と同じシステムの電子カルテが導入されました。これにより、患者さんの情報をクリニックと本院間の双方向から参照できるようになり、クリニックから本院への患者さんの紹介（あるいはその逆）も簡略・迅速化されます。また、クリニックは本院の一部門として機能が強化され、クリニックで診療を行う医師だけでなく、両施設に通院する患者さんの利便性の向上にもつながります。

クリニックは、呼吸器・アレルギー内科、消化管内科、循環器内科、そして皮膚科について、月曜から金曜までのほぼ毎日、午前・午後それぞれで診療を行っています。他の内科領域（肝胆膵、糖尿病、神経、血液、腎臓・膠原病・リウマチの各領域）だけでなく、耳鼻咽喉科、眼科、痛みセンター、睡眠科、内分泌外科、消化器外科といった、本学における特色ある診療科についても、定期的に診療が行われています。また、内視鏡検査やCT検査、



各種生理機能検査など、本院とほぼ同じ内容で外来診療を行うことができます。

本院へ通院中の安定した患者さんや外部医療機関から本院へご紹介される患者さんの中で、名古屋市内への通院の方が便利な患者さんがいらっしゃいましたら、是非メディカルクリニックへご紹介を頂ければと思います。

運動療育センター講演会開催

平成27年3月14日（土）大学本館たちばなホールにおいて、運動療育センター講演会が開催されました。

講演会に先立ち、本センターの会員を対象に行った「身体若さコンテスト」（体組成計にて計測した身体年齢と実年齢の差を比較）と「1週間歩数コンテスト」（万歩計で1週間の歩数を測定）で、優秀な成績を収められた方に牛田享宏運動療育センター長から表彰状と副賞が贈られ、会場は温かな拍手に包まれました。

続いて、講演会では、高齢者の健康に関する研究で有名な国立長寿医療研究センターの島田裕之氏を講師としてお招きし、「運動による認知症予防」をテーマに、認知症発症に不安を抱く方やご家族に認知症患者を持つ方にとって大変役立つ話や、講演会場でも簡単にできる認知症予防体操の実技指導を行って頂きました。参加者には講演内容を熱心にメモされる方が多く、また、体験



時には笑顔があふれ、充実した時間を過ごされました。

今回は、300名を超える方々にご参加頂きましたが、本センターではこれからも多くの方々に関心を持って頂けるテーマを中心に調査研究を進め、地域の方々の健康づくりに少しでも役に立てるように努めていきます。

第27回日本医師会認定産業医研修会を開催

平成27年3月21日（土・祝）大学本館講義室において、日本医師会認定産業医講習会を開催し、93名の先生方にご参加頂きました。

今回は、「産業医活動の実践的ポイント」をテーマに4人の講師の先生に講演、実地指導をお願いいたしました。

最初に、柴田英治先生（医学部衛生学講座・教授（特任））から「職場における化学物質とその管理」について、労働安全衛生法の改正を踏まえ、リスクアセスメントの進め方についてお話頂きました。

続いて、渡邊美寿津先生（トヨタ自動車株式会社・産

業保健科学センター長 小林 章雄

業医）から「産業医が心得ておくべき職場復帰の留意点メンタルヘルス不調を中心に」について、産業医として留意すべきメンタルヘルス不調で休業後の職場復帰について解説頂きました。

また、旭労災病院の宇佐美郁治先生（副院長）と横山多佳子先生（健康診断部）には、「職域呼吸器疾患の胸部XP読影のポイント」として、様々な職域呼吸器疾患の胸部画像を供覧して頂き、読影の実習をご指導頂きました。

産業保健科学センターでは、今後も更に充実した内容となるよう、検討を重ねていく予定です。

造血細胞移植振興寄附講座 小寺良尚教授 2015 Recipient of the CIBMTR Distinguished Service Award受賞

医学部造血細胞移植振興寄附講座の小寺良尚教授が、平成27年2月13日（金）米国サンディエゴにて開催された米国造血細胞移植学会において、2015 Recipient of the CIBMTR Distinguished Service Awardを受賞しました。

同賞は、北米の造血細胞移植登録機関であるCIBMTR（国際細胞移植研究機構）の活動に対して、めざましい貢献をしたメンバーに授与されるもので、日本では初めての受賞となります。

これは、小寺教授の日本国内における造血幹細胞移植及びその研究活動に加えて、アジア・太平洋造血細胞移植グループ（APBMT）や世界造血細胞移植ネットワーク（WBMT）での国際協力活動などの幹細胞移植の世界的推進におけるリーダーシップが学術的に高く評価されたものです。

受賞された小寺教授から「受賞を大変光栄に思っております。この賞は、これまで私が関わってきた日本造血



Yoshihisa Kodera, MD, PhD
Professor, Alchi Medical University School of Medicine
2015 Recipient of the
CIBMTR Distinguished Service Award



Dr. Kodera receives this award for his service and commitment to the CIBMTR, his dedication to advancing the field of hematopoietic stem cell research and his leadership in promoting stem cell transplantation throughout the world.

Please join us in extending this honor to Yoshihisa Kodera, MD, PhD, during the CIBMTR General Assembly and Awards Meeting.

Friday, February 13, 2015
4:45 pm - 5:15 pm
Sesport A-E

受賞に際して作成されたパンフレット

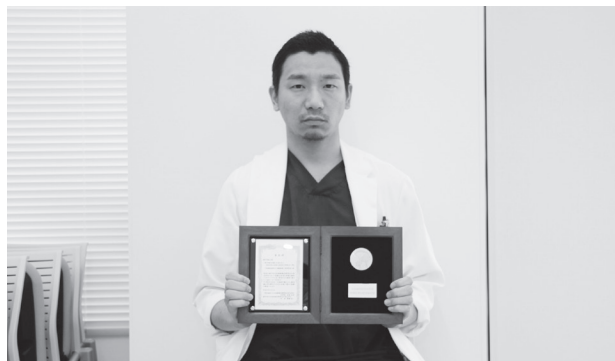
細胞移植学会、日本造血細胞移植データセンター、日本骨髄・臍帯血バンク、アジア・太平洋造血細胞移植グループ（APBMT）、世界造血細胞移植ネットワーク（WBMT）のメンバー全てに授与されたものと理解しております。」と感想がありました。

脳神経外科学講座 丹羽愛知助教 第88回日本脳神経外科学会中部支部会 優秀論文賞受賞

脳神経外科学講座の丹羽愛知助教が、平成27年4月25日（土）・26日（日）金沢市アートホールにて開催された「第88回日本脳神経外科学会中部支部会」において、優秀論文賞を受賞しました。

同賞は、同会で発表された演題の中から、卓越した知見と緻密な解析によるimpactの高い発表に贈られるもので、丹羽助教が発表した「A case of Tumefactive Multiple Sclerosis Mimicking Glioblastoma Received Surgery」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた丹羽助教から「一人の患者さんの病態をより正確に捉えることは、新しい治療法の発見ほど華やかではありませんが、時に新しい知見をもたらしてくれる



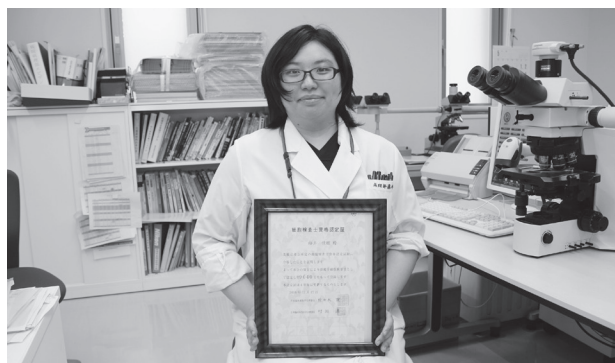
ます。これからも一人ひとりと真摯に向き合っていきたいです。」と感想がありました。

病院病理部 藤井佳穂臨床検査技師 細胞検査士認定

本院病院病理部の藤井佳穂臨床検査技師【写真】が細胞検査士に認定されました。

細胞検査士は、がんの早期発見・早期診断のため、細胞検査（細胞診）によって「がん細胞」を発見することが実務であり、資格取得には臨床検査技師の国家試験に合格し、細胞診業務1年以上の実務経験を有した者と受験資格が定められています。日本臨床細胞学会による筆答・実技の両面にわたる試験に合格した技師に与えられ、資格合格率は全体で25%という難関な試験です。

認定を受けた藤井技師から「この度晴れて細胞検査士の一員として認定試験に合格でき、とても嬉しく思います。試験合格に当たり、多大なご指導を頂いた先生、先輩方のおかげです。一日も早く細胞検査士として、皆さ



まの信頼を頂けるようにこれからますます業務に励みたいと思います。」と感想がありました。

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



佐藤 洋造

学位授与番号 甲第440号

学位授与年月日 平成27年 2月19日

論文題目:「Percutaneous Drainage for

Afferent Limb Syndrome and Pancreatic Fistula via the Blind End of the Jejunal Limb after Pancreatoduodenectomy or Bile Duct Resection (膵胆道がん術後の輸入院症候群および膵液瘻に対する、挙上空腸盲端部を介した経皮的ドレナージ術の検討)」



青山 正寛

学位授与番号 甲第441号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目:「Expression of Mitogen-

activated Protein Kinases in Chronic Subdural Hematoma Outer Membranes (慢性硬膜下血腫外膜におけるMitogen-activated Protein Kinasesの発現)」



大曲 貴夫

学位授与番号 甲第442号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目:「Are strict isolation policies

based on susceptibility testing actually effective in the prevention of the nosocomial spread of multi-drug-resistant gram-negative rods? (抗菌薬感受性試験結果に基づく、多剤耐性菌の院内伝播を防ぐための厳格な隔離予防策は実際に有効か?)」



三浦 陽子

学位授与番号 甲第443号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目:「Anti-Androgenic Activity of

Icarisid II from Epimedium Herb in Prostate Cancer LNCaP Cells (イカリソウ由来Icarisid IIの前立腺癌LNCaP細胞に対する抗アンドロゲン作用)」



岡出 隼人

学位授与番号 甲第444号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目:「Characterization of plasmid-

mediated quinolone resistance determinants in *Klebsiella pneumoniae* and *Escherichia coli* from Tokai, Japan (日本国内における肺炎桿菌及び大腸菌由来プラスミド媒介性キノロン耐性遺伝子の特徴)」



Md. Ekhtear Hossain

学位授与番号 甲第445号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目:「Arsenic augments the uptake

of oxidized LDL by upregulating the expression of lectin-like oxidized LDL receptor in mouse aortic endothelial cells (ヒ素はマウス血管内皮細胞においてレクチン類似酸化LDL受容体の発現を増加されることで酸化LDLの細胞への取り込みを増強する)」



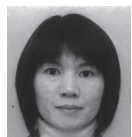
安藤 一雄

学位授与番号 甲第446号

学位授与年月日 平成27年 3月12日

論文題目:「Centrally administered

isoproterenol induces sympathetic outflow via brain prostaglandin E₂-mediated mechanisms in rats (ラットにおいて、イソプロテレノールの脳室内投与により、脳のプロスタグランジンE₂を介して交感神経系が賦活化される機構)」



有田 亜紀

学位授与番号 甲第447号

学位授与年月日 平成27年 3月12日

論文題目:「Risk factors for automobile

accidents caused by falling asleep while driving in obstructive sleep apnea syndrome (睡眠時無呼吸症候群における居眠り運転事故発生要因)」



高田 真澄

学位授与番号 甲第448号

学位授与年月日 平成27年 3月12日

論文題目:「Peripheral Viewing during

Exposure to a 2D/3D Video Clip: Effects on the Human Body (2D/3D映像視聴時の周辺視が人体に及ぼす影響)」



水谷 圭吾

学位授与番号 甲第449号

学位授与年月日 平成27年 3月12日

論文題目:「Effect of low concentrations

of hyaluronan and chondroitin sulfate on flow rates (低濃度ヒアルロン酸とコンドロイチン硫酸が流速に及ぼす影響)」

◆大学院看護学研究科

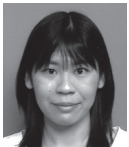


成定 明彦

学位授与番号 甲第450号

学位授与年月日 平成27年 3月26日

論文題目：「Inverse association of des-acyl ghrelin with worksite blood pressure in overweight/obese male workers (肥満男性労働者におけるデスアシルグレリンと職場血圧の逆相関関係)」



鬼塚 知里

学位授与番号 甲第451号

学位授与年月日 平成27年 3月26日

論文題目：「Arterial blood pressure response to head-up tilt test and orthostatic tolerance in nurses (看護師の起立試験に対する血圧反応と起立耐性)」



牧野 泉

学位授与番号 乙第371号

学位授与年月日 平成27年 3月12日

論文題目：「The Effects of Exercise Therapy for the Improvement of Jaw Movement and Psychological Intervention to Reduce Parafunctional Activities on Chronic Pain in the Craniocervical Region (頭頸部における非器質的慢性痛に対する下顎運動療法と口腔パラファンクション行動を減少させるための心理介入による効果)」



宮川 博文

学位授与番号 乙第372号

学位授与年月日 平成27年 3月26日

論文題目：「変形性膝関節症患者の膝機能に及ぼす運動効果－X線重症度別検討－」



三宅豪一郎

学位授与番号 乙第373号

学位授与年月日 平成27年 3月26日

論文題目：「Effects of topical diquafosol pretreatment on intraoperative corneal wetting (Diquafosol点眼前処置の手術中角膜水濡れ性に対する効果：人工涙液との一重盲検研究)」



伊藤 美佳

学位授与番号 第67号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目：「先天性心疾患患児への術後急性期の看護に関する文献研究」



河村 諒

学位授与番号 第68号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目：「東日本大震災の広域避難者に見られた看護ニーズの検討－生活再建過程での述懐をもとに－」



葛原 健太

学位授与番号 第69号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目：「A 総合病院における末梢静脈カテーテル関連血流感染 (PLABSI) 発生状況とその要因に関する検討」



黒澤 昌洋

学位授与番号 第70号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目：「特定行為に係る看護師に関する文献研究」



坪井 秀介

学位授与番号 第71号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目：「事故発生後の東京電力福島第一原子力発電所近隣地域に勤務している看護師の経験－放射線災害看護における基盤の検討－」



溝江 弓恵

学位授与番号 第72号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目：「介護老人福祉施設における医療的ケアの実態と認識－看護職と介護職の協働を考える－」



森 一直

学位授与番号 第73号

学位授与年月日 平成27年 3月 7日

論文題目：「集中治療中に終末期を迎えた患者の家族ニーズに関する文献研究」

研究助成等採択者

○公益財団法人てんかん治療研究振興財団

平成27年度研究助成

- 氏 名 倉橋宏和（小児科・助教）
研究題目 Dravet症候群における発熱に伴う超急性期免疫学的反応の解析
助成金額 1,600,000円

○公益財団法人市原国際奨学財団

第23回（平成27年度）研究助成

- 氏 名 林 寿来（生理学講座・講師）
研究題目 G蛋白活性制御因子による血管新生の制御
助成金額 500,000円

○公益社団法人日本皮膚科学会 平成27年度基礎医学研究費（資生堂寄付）

- 氏 名 武藤 潤（皮膚科・講師）
研究題目 創傷治癒時の炎症におけるグリコサミノグリカンの役割の解明
助成金額 1,000,000円

○公益財団法人額田医学生物学研究所

平成27年度研究助成金

- 氏 名 姫野龍仁（内科学講座（糖尿病内科）・助教）
研究題目 糖尿病性多発神経障害におけるグルコース応答性Kチャネルの役割の解明
助成金額 450,000円

○公益財団法人堀科学芸術振興財団

第24回（平成26年度）研究助成

- 氏 名 太田明伸（生化学講座・講師）
研究題目 CRISPR/Cas9システムを利用した骨髄腫の薬剤耐性化に関わる分子機構の解明
助成金額 1,000,000円

○公益財団法人中京長寿医療研究推進財団

第3回（平成26年度）医学研究助成金

- 氏 名 安藤博彦（循環器内科・講師）
研究題目 検診領域において冠動脈硬化症の早期発見に対するMCGの有用性
助成金額 500,000円

○公益財団法人大幸財団

第32回（平成27年度）学会等開催助成

- 氏 名 横尾和久（形成外科・教授）
学会名称 第41回日本熱傷学会総会・学術総会
助成金額 200,000円

○公益財団法人大幸財団

第32回（平成27年度）学会等開催助成

- 氏 名 木村伸也（リハビリテーション科・教授（特任））
学会名称 第38回総合リハビリテーション研究大会
助成金額 200,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第35回日本中毒学会西日本地方会
- ・第18回日本病理学会中部支部スライドセミナー

【開催日】

- 平成27年2月14日（土）
- 平成27年3月14日（土）

【会長等】

- 中川 隆
- 高橋恵美子

第35回日本中毒学会西日本地方会

平成27年2月14日（土）大学本館において、第35回日本中毒学会西日本地方会が災害医療研究センターの中川隆教授が大会長として開催されました。

本地方会は、昭和57年に大阪でスタートし、その後も関西地区を中心に開催されてきましたが、今回初めて愛知県での開催となり、当研究センターのみならず本学にとっても非常に名誉なことと言えます。

伊関憲先生（福島県立医科大学医学部地域救急医療支援講座教授）による特別講演「危険なガス中毒」では社会の動向、インターネット等による情報取得の簡便化に伴う自殺手段の変遷など、非常に興味深い内容でした。

また、松本智寛先生（関西医科大学医学部法医学講座助教）による教育講演「合成カンナビノイド中毒と交通事故」も、昨今の警察の取り締まりや交通事故発生時の特徴など、新鮮かつ貴重な情報を得ることができ、約100名の参加者との積極的な質疑応答がありました。

一般演題では、分析法に関する熱いディスカッションが展開されるなど、どの演題も有意義なものばかりでした。

本地方会開催に当たり、ひとかたならぬご支援を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

第18回日本病理学会中部支部スライドセミナー

平成27年3月14日（土）大学本館303講義室において、第18回日本病理学会中部支部スライドセミナーが本院病院病理部の高橋恵美子准教授が世話人として開催されました。

今回のスライドセミナーのテーマは「悪性リンパ腫」で、前半は3名の講師の先生方に悪性リンパ腫の臨床・病理学的所見について講義をして頂き、後半は7演題の症例検討が行われました。症例検討では、活発な質疑応答があり、コメンテーターの先生方からは貴重なご意見を伺うことができました。

会の数日前には雪が積もるなど、天気が心配されましたが、当日は天候に恵まれ、東海北陸8県から140名の先生方にご参加頂き、大変有意義な会となりました。

日本病理学会中部支部では、年1回のスライドセミナー、年2回の交見会が開催され、日頃なかなか経験できない貴重な症例の症例検討を行うことによって、日々の病理診断の向上にとっても役立っています。

末筆となりましたが、本会の開催にあたり、皆さま方に多大なるご支援、ご協力を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

大学学則の一部改正等

愛知医科大学学則の一部が改正され、大学附属施設として国際交流センターが、医学部附属施設としてシミュレーションセンターが設置されました。

施行日は平成27年4月1日

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日は、いずれも平成27年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学国際交流センター規程
- ・愛知医科大学国際交流センター運営委員会規程
- ・国際交流センターの英文名称について
- ・愛知医科大学医学部シミュレーションセンター規程
- ・愛知医科大学医学部シミュレーションセンター運営委員会規程

大学院学則の一部改正

愛知医科大学大学院学則の一部が改正され、大学院において転入学希望者を受け入れるために必要な制度が整備されました。

施行日は平成27年3月16日

研究活動上の不正行為の防止等に関する規程の一部改正

愛知医科大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程の一部が改正され、文部科学省におけるガイドライン改正に対応した研究活動上の不正行為の防止等に関する組織体制の整備が行われました。

施行日は平成27年4月1日

公的研究費の取扱いに関する規程等の制定

愛知医科大学における公的研究費の取扱いに関する規程が制定され、本学における公的研究費等の不正使用を防止し、その適正な管理・運営を図るために必要な組織等が整備されました。

施行日は平成27年3月1日

また、この制定に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日は、いずれも平成27年3月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学公的研究費等不正使用防止計画
- ・愛知医科大学における公的研究費等の使用に関する行動規範
- ・公的研究費等の適正な運営及び管理に関わる誓約書の取扱いについて
- ・公的研究費等の適正な運営及び管理に関わる研究用物品の発注及び納品検収業務について

受託研究規程の一部改正等

研究費の受入（受託事業収入）に係る消費税の取扱い、知的財産権等の取扱い等を整理するため、次の関係規則が整備されました。

施行日は、受託研究関係が平成27年3月9日、共同研究関係が平成27年2月16日

【一部改正】

- ・愛知医科大学受託研究規程
- ・愛知医科大学共同研究規程

【新規制定】

- ・受託研究費に係る管理経費等について
- ・共同研究費に係る管理経費等について

【廃止】

- ・受託研究費に係る管理経費として控除する額について
- ・共同研究費に係る管理経費の額について

医学部履修規程の一部改正

愛知医科大学医学部履修規程の一部が改正され、医学部における授業科目、年次配当、単位数等が整理されました。

施行日は平成27年4月1日

看護学研究科学務委員会規程の一部改正

愛知医科大学大学院看護学研究科学務委員会規程の一部が改正され、看護学研究科学務委員会の委員構成が整理されました。

施行日は平成27年4月1日

看護実践研究センター認定看護師教育課程設置規程等の一部改正

愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター認定看護師教育課程設置規程及び愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター認定看護師教育課程細則の一部が改正され、認定看護師教育課程における休学及び復学に関する制度が整備されました。

施行日は平成27年3月18日

看護実践研究センター認定看護師教育課程教員会規程の一部改正

愛知医科大学看護学部附属看護実践研究センター認定看護師教育課程教員会規程の一部が改正され、認定看護師教育課程教員会の委員構成が整理されました。

施行日は平成27年4月1日

加齢医科学研究所規程の一部改正

愛知医科大学加齢医科学研究所規程の一部が改正され、加齢医科学研究所における研究部門が再編されました。

施行日は平成27年4月1日

病院規程の一部改正等

愛知医科大学病院規程の一部が改正され、内科学講座改編に伴う関連診療科改編並びに中央診療部組織として臨床研究支援センター及び先制・統合医療包括センターの設置等が行われました。

施行日は平成27年4月1日

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日は、いずれも平成27年4月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院先制・統合医療包括センター規程
- ・愛知医科大学病院先制・統合医療包括センター運営委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院生殖・周産期母子医療センター規程
- ・愛知医科大学病院生殖・周産期母子医療センター運営委員会規程
- ・愛知医科大学病院治験管理センター規程
- ・愛知医科大学病院治験管理センター運営委員会規程

卒後臨床研修管理委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院卒後臨床研修管理委員会規程の一部が改正され、卒後臨床研修管理委員会の委員構成、開催要件等が整理されました。

施行日は平成27年2月1日

メディカルクリニック規程の一部改正

愛知医科大学医学部附属メディカルクリニック規程の一部が改正され、メディカルクリニックにおける診療科組織及び看護科組織が改編されました。

施行日は平成26年12月15日

給与規程の一部改正

学校法人愛知医科大学給与規程の一部が改正され、平成26年度人事院勧告に基づき国家公務員俸給表が改正されたことに準じて、本学の本給表等が改正されました。

施行日は平成27年4月1日

事務組織規程の一部改正等

学校法人愛知医科大学事務組織規程の一部が改正され、事務組織における部署名及び所掌事務の一部が整理されました。

施行日は平成27年4月1日

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成27年4月1日

【一部改正】

- ・事務組織の所掌事務細目について
- ・総務・企画室事務分掌について
- ・病院事務部事務分掌について
- ・医事管理部事務分掌について

施設委員会規程の制定等

学校法人愛知医科大学施設委員会規程が制定され、今後のキャンパス整備に係る施設の整備計画に関する事項を審議する際の中心的役割を担う組織として「学校法人愛知医科大学施設委員会」が法人に設置されました。

施行日は平成27年4月1日

また、この制定に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日は、いずれも平成27年4月1日

【新規制定】

- ・施設管理委員会設置要綱
- ・整備計画検討委員会設置要綱

【廃止】

- ・愛知医科大学施設委員会規程

医科大学における基礎研究の意義

感染・免疫学講座 教授 高村（赤司）祥子

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

2003年に世界医学教育連盟（WFME）が公表したグローバルスタンダードプログラムに基づき、医学教育レベルの評価が全国の各大学で行われています。国際レベルで認められた質の高い教育を提供していくことが医科大学の使命であります。外国の専門医志向への傾倒ではなく、伝統的な日本の医療システムの素晴らしさや技術の高さを誇れるものも多いことを理解した上で、良いものは取り入れていくというスタンスであるべきだと思います。

基礎研究はしっかりとした実験結果に基づく理論の積み重ねで成り立っていますが、理解するには、ときには哲学的ともいえる熟慮が要求されます。国家試験対策として、ただひたすら詰め込んで暗記するのではなく、理論に基づいて考えていく習慣をつけることが医師にとっては必要であり、講義・実習・試験においても常にその観点に基づいて構成するよう努めて参ります。また、医療の現場では、基礎研究で生まれた新しい概念や手法や分子を基にした治療方法が盛んになってきていますが、それらが行われる際に受け手である我々の体がどのように反応するのか、アレルギーやアナフィラキシーショックにならないかという点は決して無視できない問題です。また、昨今のデング熱やエボラ出血熱など、どんなに医療が発達しても感染症による脅威は消滅することはありません。



感染症や治療に対する生体反応の仕組みをしっかりと理解した上で最適な治療方法を選択できる医師を育てていくよう努めていきたいと考えています。

本講座は、細菌・微生物学と免疫・寄生虫学の二つの分野で構成されます。細菌・微生物学分野は、横地高志教授の下、細菌・ウイルス・免疫の3分野を担当し、リポポリサッカライド（LPS）に対する生体の反応を中心に研究を行ってまいりました。横地教授は平成27年3月に定年退官され、現在、次期教授の選考を行っております。

免疫・寄生虫学分野では、感染症診断や大規模な国際協力・フィールドワークを行って参りました。免疫学に関しては新加入の助教や大学院生とともに、脂質応答と免疫に関する研究を進めて参りたいと思います。



【世界に発信する医学研究】

病原体成分と自然免疫応答（細菌・微生物学分野）

大腸菌や髄膜炎菌などのグラム陰性菌は、リポ多糖（LPS）というヒトにとって毒性をもつ外膜を有します。このLPSはヒトに内毒素ショックという致命的障害を引き起こします。当分野は戦略的研究基盤形成事業に参画し、内毒素による新しい肺障害モデルを確立して臓器障害のメカニズムの解明とその制御について取り組んでいます（http://amu-strategy.org/?page_id=22）。また、病原体の宿主自然免疫系からの回避機構を様々なウイルスや、細菌を用いて幅広く研究しています。

脂質応答と病原体認識機構との関連

（免疫・寄生虫学分野）

我々はToll-Like Receptor（TLR）を始めとする病原体認識機構の解明に取り組んで参りました。TLRは、種を越えて保存されてきた危険排除システムですが、生体内分子にも反応することから、恒常性維持機構の役割も担っていることが示されてきています。最も興味深いのは、生体内脂質の免疫応答への影響です。TLR会合分子MD-1やMD-2は脂質結合分子でもあり、生体反応においても重要な役割を演じている可能性があります。その一例として、我々はリゾリン脂質によるB細胞活性化作用をMD-1が制御している可能性を見出しました。この反応がヒトでもあてはまるのか、また臨床応用への可能性について、東京大学医科学研究所や本学医学部の臨床医学講座と共同で研究を進めております。今後も、ヒトにとって役に立つような研究を進めて参りたいと思っております（<http://www.aichi-med-u.ac.jp/M-I2/index.html>）。

【講座からの一言】

感染・免疫学講座の研究範囲はとても幅広いことから、前述以外にも、ウイルス学や寄生虫診断学の専門家もあり多種多様な研究を進めております。この特色を生かして多分野の融合研究や共同での学生指導などフレキシブルに行っていきたいと考えております。例えば、現在2学年次時に行っている基礎医学セミナーでは、寄生虫感染時の免疫反応というテーマの下、複数で協力して指導にあたっております。このように風通しの良い、仲のよい講座なのでどうぞいつでもお気軽にお越しください。

